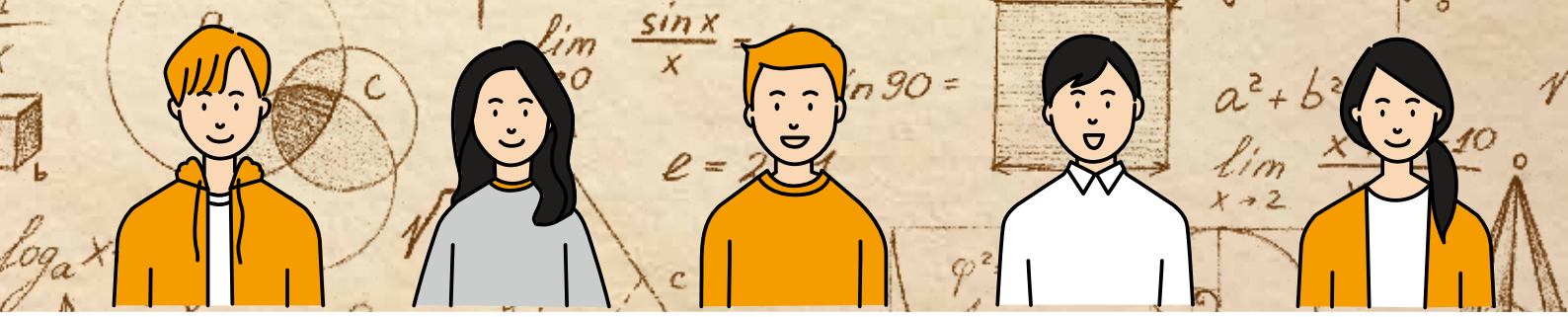
第88号
令和3年3月発行
都城工業高等専門学校
広報委員会

学園だより



content

●巻頭挨拶 …… 1
●学内動向 …… 2
●ようこそ学生相談支援室へ …… 3
●着任挨拶 …… 4
●退任挨拶 …… 6
●卒業記念・修了記念 …… 7
●特集Ⅰ こちら在校生 …… 19
●特集Ⅱ 拝啓後輩殿(OB・OG通信)… 23
卒業生から後輩へのメッセージ
●特集Ⅲ こちら後援会 …… 25
●新旧学生会長挨拶 …… 27
●学内トピックス …… 28
●国際交流トピックス …… 31
●図書館トピックス …… 33
●主な就職・進学内定先一覧 …… 34

巻頭挨拶

令和２年を振り返って

校長　岩佐　健司

令和２年春から新型コロナ感染が全世界で蔓延しはじめ、現在に至ってもその収束の目途がたちません。産業界のみならず、社会全体に不透明でかつ不安な雰囲気が社会全体を覆っています。本校においても、今年度は感染防止の観点から、年度当初の休校措置や例年とは異なった授業運営を実施いたしました。学生そして保護者の皆様は不安と不便を感じられたことと思います。同時に、毎年実施していた多くの校内イベントが規模縮小あるいは中止になりました。対面ではない始業式実施、そして、コロナ感染防止対応方針、授業計画などのお知らせは動画を交えたHP上で行いました。さらには、例年本校で開催するオープンキャンパスでは、参加者の「３密」を回避する目的で本校HP上にバーチャルオープンキャンパスを開設しました。そこでは、ドローンを使用した空撮をふんだんに取り入れた新しい学校紹介の試みとして、評価を戴いております。

このコロナ禍においても、学生の学びと研究が結実する各種コンテストやイベントに多くの学生の参加と活躍がありました。例を挙げますと、ロボットコンテストの九州沖縄地区大会はオンライン開催となり、そこで本大会選抜された「とどけ！ケーキゴーランド！」は、同じくオンラインで開催された全国大会に出場し特別賞を受賞しました。全国高専デザインコンペティションでは、仙台高専主幹校としてこれもオンライン開催となりました。本校からも構造デザイン部門と空間デザイン部門に全３作品を応募し、その活躍が紹介されました。その他、体育部門においても通常の正規大会の代替としての大会が開催され、学生の活躍がHP等で紹介されています。学会等研究活動においてもオンラインでの発表が主たるものとなりました。また、本校の研究紹介と企業の皆様との更なる共同研究を推進する初めての企画として、本校にて都城高専専攻科研究発表会が12月18日に開催され学生の研究発表、並びに令和２年春に都城市内企業に就職されたモンゴル高専出身者の紹介もあり、成功裏に開催されたことは今年度の大きな成果であります。

今年度はコロナ禍において対面での会合に留意しつつ、可能な限りオンラインでの利活用が求められた年でありました。これは教育研究分野だけでなく、働き方を含む社会全体を通信ネットワークシステムがもつ利便性を享受することで各分野における高度化実現のためであり、その方向性は次年度以降も続くことが予想されます。学びに関しては、オンライン利用では情報共有や複数人での会話が不十分になりがちであり孤独を感じる懸念はありますが、個人ベースで活動できる良さはあります。在校生そして社会へ旅立つ皆さんは、これから環境が変わっても学びは一生続きます。そのためにも、多様な好奇心を持ちつつ将来への夢を見つけるためには、多くの人との会話や読書を含め多様な学びのスタイルを活用してください。

小惑星探査機はやぶさ２のカプセルが12月６日に小惑星まで飛行し試料採取して、６年ぶりに地球に帰ってきました。入手した試料サンプル分析から、太陽系の歴史の解明が期待されています。この難しいミッションを実現できたのは、プロジェクトチームの一人ひとりの高度な技術力と強い使命感によるものです。そこではチームスタッフ其々がこの任務に着くずっと前から、あるいは子供のころからロケットそして宇宙への憧れからがあったとの報道を聞くにつけ、夢を持つことは大切だと実感します。

コロナ終息後は脱炭素社会、そして高速情報通信とAIを技術基盤とするsociety5.0社会など、新しい社会に向けた取り組みが加速されることが予想されます。そこでは個人の専門性と技術力が求められますし、若い諸君には多岐にわたる分野での活躍が期待されています。

今年度の終りに際し、学生諸君には学生生活を振り返り、新たな年度を迎える自らの準備をして欲しいと思います。また、この春本校を卒業あるいは専攻科修了して新たな旅たちをする諸君には、新しい社会で大いなる夢をもって学び続ける意思を持ち続けてください。そして、これからも都城高専との繋がりに期待しています。最後に保護者の皆様、この紙面を通じて本校の教育と研究活動へのご理解とご支援にあらためて感謝申し上げ、今後ともご支援戴けるようお願いいたします。

教務主事　　山下　敏明

遠隔授業

2020年の新語・流行語の年間大賞は、“３密”でしたが、教育の現場においては、“遠隔授業”ではなかったでしょうか。高専の教育は設置基準という法令に基づき行われています。昨年から、新型コロナウイルス感染防止対策として遠隔授業の実施が余儀なくされましたが、以前より、高専設置基準の中には、「多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。」と定められており、私たちはこれを単に「遠隔授業」と呼んで実施しているわけです。これまでに小規模ながらも遠隔授業を実施してきた大学・高専はありましたが、このコロナ禍で、一気に、遠隔授業がクローズアップされることになりました。多様なメディアを高度に利用した教育とは、遠隔でやることが目的ではなく、授業効果を上げるための一つの方法として、多様なメディアを駆使すれば、教室等以外の場所からでも授業を行ってもよい、ということかと思います。対面授業とて決して万能ではなく、遠隔授業の得意とするところを教育に組み入れていけば、これまでにない教育が実現できるかもしれません。コロナ禍は、授業＝対面という視点を変えてみては、と疑問を投げかける機会になったと思います。

学生主事　　若生　潤一

ゼロから始める withコロナ生活

令和２年度の学校生活については、新型コロナウイルス感染症を抜きに語ることができません。前期は遠隔授業となり、後期からは登校を伴う授業が再開されましたが、その学校生活においては「with コロナ」という新たな重荷が加わりました。具体的には、Webによる健康・旅行調査、登校時の検温チェック、教室の換気、マスクの着用、社会的距離の確保、手洗い・手指消毒、昼食時の対面座席の回避、教室移動時と放課後の除菌作業、課外活動における感染症対策などです。参加予定の大会や演奏会等について、直前の感染拡大のため参加を取りやめざるを得なかった部活動もありました。学生諸君にとって実に多くの我慢を強いられた一年だったと思います。

そのような中でも、感染症対策を施した上で体育競技会とクラスマッチが実施できたことは幸いでした。今年度は残念ながら実施がかなわなかった高専祭も含め、各行事の企画、検討に尽力された学生会の各実行委員の皆様に深く感謝申し上げます。

校内のwithコロナ生活については日々暗中模索の一年でありました。ご協力いただいた学生、教職員及び保護者の皆様方に心より御礼を申し上げます。

寮務主事　　永野　茂憲

ミネルバのフクロウは黄昏にはばたく

前寮務主事の友安先生より、寮務主事を引き継ぎ現在に至ります。今年度は、新型コロナウイルスの流行により、予定していた寮行事をほとんど実施できていません。入寮式（入学式）は実施できましたが、年度当初入寮したのは、１、２年生のみ。ほとんどの皆さんは、入寮することなく３ケ月が過ぎ、７月８月に分散登校が実施されました。お風呂はシャワーのみ。食事はお弁当。部屋は１人部屋。参加人数は、学年が上がるほど少なくなる傾向でした。

後期は、全面開寮が実現しました。直接飛沫を防止するためカーテンを設置（後援会から費用を負担していただきました、感謝申し上げます）。食堂には、仕切りを設置。各個人にスプレーボトルを配布。各出入り口にアルコール消毒ボトルを設置。登校時はサーマルカメラにて体温の確認実施。寮内では、マスクの着用徹底をお願いしてきました。通常より、みなさんに負担をお願いする寮生活となり、更に、行事も中止となったものが多く残念に感じている方も多いでしょう。次年度の状況も不透明ですが、ミネルバのフクロウはどのように判断するのでしょうか？大変興味深いです。

専攻科長　　野地　英樹

九大・高専の連携教育プログラム

九州大学（以下、九大）工学部と九州・沖縄地区９高専が連携した教育プログラムは、その開始（2023（令和５）年度）に向かって着実に歩みを進めています。

本プログラムに入学できるのは、専攻科入学生の中から選抜された２～３名程度であり（九州・沖縄地区で合計20～30名）、これらの学生は１年次に専攻科で学びながら九大側のカリキュラムを遠隔講義で受講し、研究基礎能力を身につけます。そして、２年次からは九大筑紫キャンパス内で本格的な研究活動を行います。学士号は通常の専攻科生とは異なり、九大から直接授与されます。本プログラムを修了した後は、九大の大学院に進学し、将来、新たな価値観や他分野への展開を創造できる研究開発者になることが期待されています。

これまで、１年次に本校で履修する「高専設置科目群（案）」が作成され、九大・高専教員間のマッチング（連携して研究を進めるための打ち合わせ）が行われてきました。春からは、本科４年生の入学希望者を対象に、九大近隣にある地元企業でのインターンシップが行われ、2022（令和４）年度・６月頃に本プログラム入学者の選抜試験が行われる予定です。

ようこそ学生相談支援室へ

皆様の学生相談支援室です

学生相談支援室長
武田　誠司

この学園だよりが皆様のお手元に届く頃には、新型コロナウィルスのワクチン接種が始まっているでしょうか。私を含め多くの人々は、希望的に未来を予測してしまいます。現状維持で何とかなるだろうというバイアスが働いてしまいます。しかしながら、予想に反して悪い状況になった時に、打ちひしがれ、悔しい思いを感じてしまいます。

昨年度は、学校生活においても目まぐるしく環境が変化し、未体験の苦労・対応を強いられた年でした。人が危機に直面したときには、３つの行動パターンをとります。１つ目は、危機に立ち向かって反撃をする。これは、頑張る気持ちが強い人です。しかしながら、頑張りに見合った成果が実現しないと、落胆も大きくなります。２つ目は、直面した危機から逃げる。３つ目は、危機に直面して心身が固まり動けなくなる。つまり、昨今の状況下においては、どのような人でも、相談が必要な状態になる可能性があります。

そこで、都城高専の学生相談支援室は、学校に登校できない状況であっても、テレビ会議システムを利用したカウンセリングの対応を行なっています。ケースによっては、スクールソーシャルワーカー(SSW)とともにお困りの現場に我々が出向いて問題解決を図ることも行います。学生はもとより、保護者からの相談も受け付けておりますので、遠慮なくご相談ください。

SSW（スクールソーシャルワーカー）の仕事

スクールソーシャルワーカー
（社会福祉士）
小川　太一

スクールソーシャルワーカーの仕事は、簡単に言うと、皆さんのお手伝いをする仕事です。今、悩んでいることや困っていることが解決できるように、必要な手続きなども一緒に行いながら、問題解決のお手伝いをいたします。

基本的には相談から始まりますが、小さな相談から、大きな相談まで幅広く対応します。

例えば、「隣の部屋が夜うるさくて眠れない」など、生活面での相談の場合、状況を調査し、必要な調整を図ることで、すぐに改善に繋がるケースがほとんどです。また、「高専に進学したけれども、どうも自分と合わないようだ…できれば、他の道を進みたい」という進路変更についての相談では、どのような進路の選択肢があるのかを、話し合いながら検討し、進路変更に必要な実際の手続きをするところまでお手伝いします。

就職を控えた５年生からの、面接の相談もあります。面接試験に向けて、マニュアル作りを一緒に行うことで、第一志望の企業に就職された先輩方がたくさんいらっしゃいます。面接を受ける上でのアピールの仕方。集団討論などで自分のポジションを作る方法。面接官があなたのどのポイントを見て採用を決めるかという視点から、あなたの面接試験のサポートをいたします。

最後に、いじめや不登校の相談について説明します。

スクールソーシャルワーカーの役割は、本人の想いに寄り添いながら、秘密を守り、環境を整え、問題の根本的な解決を図ることです。いじめや不登校でお悩みの方は、どんな些細なことでも構いませんので、お気軽に、スクールソーシャルワーカーにご相談ください。

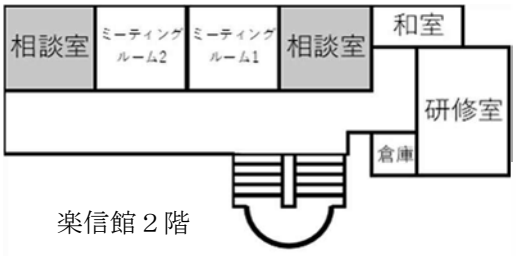
学生相談室の利用について

毎日の生活の中で出会う様々な問題や悩みについて、相談室スタッフと一緒に話し合っていきましょう。
相談の申込は以下の方法で受け付けています。

・直接スタッフへ：武田室長、田村相談員、看護師へ
・電話による申込：0986-47-1156
・Eメールによる申込：soudan@cc.miyakonojo-nct.ac.jp

友達やご家族の方と一緒に来室されても結構です。

相談室の場所はこちら



物質工学科　平沢　大樹

着任のご挨拶

令和２年度４月に物質工学科に着任いたしました平沢 大樹(ひらさわ ひろき)と申します。私は北海道にある旭川高専の物質化学工学科を卒業し、大学にて博士号を取得し大学の研究室や国立の研究機関にて研究員として様々な経験を積んできました。この度、ご縁があり都城高専にて働かせていただくことになりました。こうして私が高専に戻って働くことができるとは思ってもいませんでしたので、とても感慨深い思いです。本年はコロナ禍という経験したことがないようなドタバタの中、他の先生方や学生の皆様に温かく迎え入れていただき、あっという間に過ぎ去っていった１年となりました。周囲の方々の支えがあって、落ち着き安心して仕事ができることに感謝の気持ちでいっぱいです。

私の専門は微生物工学となります。微生物の持つ無限大のポテンシャルを理解し、利用することを目指し研究を行っています。学生の皆さんにも、その一部分でも理解して、興味を持っていただけるよう授業や卒業研究を通して伝えていきたいと思っています。また、研究においては、私自身では想像もしないような高専生の若く柔軟な発想を利用して研究を発展させていきたいと思っています。バイオ系の研究や企業は発展途中の領域になり、私自身も都城高専で学生たちと一緒に成長していきたいと思います。

最後になりましたが、不慣れなことばかりで皆様にご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、その際は何卒ご指導のほどよろしくお願いいたします。

事務部長　宮成　隆明

皆さん　初めまして

令和２年４月に事務部長に着任いたしました宮成と申します。私は、これまでの38年間、大分、沖縄、佐世保、北九州、有明の各高専と大分の大学に勤務してきました。

既に都城高専に赴任して７か月が経過しておりますが、今は、新型コロナウイルス“第３波襲来”のニュースが連日流れています。振り返れば、大混乱の４月、遠隔授業開始の５月、その後の分散登校を経て後期からの授業開始（対面と遠隔の併用）、何もかもが初めての経験でした。この間、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応基準の策定、遠隔授業システムの構築など過去に経験のない事態に対応された教職員の皆様、本校の取組に対してご理解とご支援を頂いた学生・保護者の皆様、今日があるのも一人一人が新型コロナウイルスを正しく恐れ感染防止に努めてきた結果だと思います。都城高専での“学び”が継続出来ていることについて、心より感謝申し上げます。私自身も、この素晴らしい学校の雰囲気を取り戻せたことに喜びを感じつつ、未来を担う学生を育て社会に貢献できることを誇りに頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いします。

技術支援センター　薗田　史恵

着任挨拶

初めまして、本年度４月より技術支援センターの職員として着任致しました薗田史恵と申します。主に物質工学科の実験や研究の補佐を担当しております。私は2006年に本校を卒業し、一般企業での経験を経てこの度職員として母校へ戻って来ることとなりました。

着任初年度のこの１年は自分が学生だった頃と変わらない部分を懐かしく感じたり、逆に違う部分や指導する立場となることで分かることに戸惑うこともあり、多くの先生や職員の方々に手助けしていただきました。またコロナ渦の中、遠隔授業の実施なども始めてのことがあり悩んだり、また、実験を行う機会も少なくなったり、学校行事も軒並み中止となるなど、思うように学生との交流ができずもどかしい思いもいたしました。今後はもっと本校の卒業生であることや一般企業に勤めていた経験を学生の皆さんの指導や相談に生かしていきたいとの気持ちが強くなりました。

まだまだ慣れないことも多く未熟な面もありご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、日々精進してまいりますので今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。

総務課契約係長　柿並　紀幸

着任のご挨拶

令和２年４月１日より、総務課契約係長を拝命いたしました柿並と申します。宮崎大学からの人事交流ということで、都城高専に着任し、この機会に宮崎市から都城市へ引っ越しました。以前から、ものづくり人材を育成する『高専』、同じ県内にありながら隣県の鹿児島とも接し旧薩摩藩の領地でもあった『都城』の風土にも興味がありました。平日は、高専で仕事に追われている（！？）毎日ですが、休日は都城・三股地区を流れる沖水川の上流域で渓流釣りをしたり、原付バイクで河川敷沿いをツーリングしたりとゆっくりとした時間を過ごしています。都城は食の面でも魅力的で、鹿児島県産の黒豚や志布志湾・有明海で採れた海産物が容易に手に入り、夜はそれらを食べながら霧島焼酎を嗜み、食後は近くにある茶圓で購入した茶葉で蒸し茶をいただくという大変贅沢な日々を過ごさせてもらっています。これもひとえに高専が都城に在り、長年に渡り学校を支えてこられた教職員の方々や地域の皆様方のおかげで、そこにたまたま交流人事で来ることができたと思っています。どうかよろしくお願いいたします。

学生課学生係長　横山　正人

着任にあたって

2020年４月から本校の学生課学生係に配属された横山正人と申します。宮崎大学からの交流人事ということで本校に参りました。このような発信のスペースをつくっていただきありがとうございます。

2020年はコロナ元年ともなってしまいました。私も20数年の学校事務職員の生活の中でこれまでに経験したことのない未曽有の対応の数々に追われました。普通にいるはずの学生がいない学校対応はいろいろな問題を生みました。例えば、遠隔授業は単なる知識を伝達する技術としては斬新で優れた面もありますが、教育とは何か（どうあるべきか）を投げかける本質的な問題を含むものです。本当はもっとそのようなことに目を向けて、じっくりと考え、よりよいものに進んでいく必要があるのでしょうが、いかんせん今日本中がコロナ対応に追われ、政府も経済も教育も疲弊しきっており危機的な状況です。

少なくとも各人ができる術としては、それぞれがやるべきこと、やれることを自覚し、それらに真面目にそして地道に取り組むことしか解決の手立てはありません。私自身も学校現場の仕事を通じて、少しでも社会に貢献できるように頑張っていきたいと思います。「コロナに負けるな」、皆様方も共に頑張りましょう。

学生課教務係　永倉　槙乃

着任挨拶

令和２年４月に学生課教務係に着任しました永倉槙乃と申します。昨年の３月に大学を卒業し、就職して早くも１年が経とうとしております。全てが初めてのことで、不安な日々を過ごすこともありましたが、周りの方々に支えられ１年を終えることができましたこと、心から感謝申し上げます。

本校で早い段階から５年間、あるいは７年間かけて勉強・研究に励んでいる学生の姿を見て、日々様々な刺激を受けながら業務に励んでいます。学生課教務係では、学生個人の進路に大きく影響する業務等もありますので、常に緊張感を持ちながら何事にも慎重に取り組んでいきたいと思っています。

好きなことはバレエ鑑賞とバレーボール観戦です。バレーボールは毎年V１リーグの好きなチームの応援に全国各地に出かけています。今年はコロナ感染症の影響で残念ながらテレビでの応援になりましたが、また応援に行ける日を楽しみにしているところです。

社会人としての第一歩を都城高専で迎えられること、本当に嬉しく思います。まだまだ不慣れなことばかりで、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆さまのお役に立てるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

総務課総務係　中武　咲江

着任挨拶

令和２年４月に総務課総務係に着任いたしました、中武咲江（なかたけ　さえ）と申します。

３月まで、宮崎市内で学生として勉学・アルバイト・遊びに励んでいましたが、都城高専に着任することを機に都城市に引っ越してきました。

住み慣れていない町で始まった、初社会人生活。新型コロナウイルス感染症の影響で例年にはない業務が増える中でも、先生方や上司、周りの方々は優しく、理解できるまで教えてくださるなど、恵まれた環境だと実感する毎日です。

私が担当する主な業務は、国際交流・広報です。そして、現在私が担当している業務の一つに、この「学園だより」があります。こうして、今皆様のお手元に無事に今年度版の学園だよりが届いているころ私は、達成感と共にホッと安心していると思います。

都城高専に総務係員として着任して、早くも１年が経とうとしています。着任当時は不安でいっぱいでしたが、最近はやりがいや楽しさも実感できるようになりました。しかし、まだまだ未熟でミスしてしまうこともあり周りの方々にはご迷惑をおかけいたしますが、微力ながら精一杯頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

学生課寮務係　首藤　洋子

着任挨拶

令和２年３月より都城高専学生課寮務係に着任いたしました首藤洋子と申します。

新年を迎え令和３年になり、寮務係の仕事ももうすぐ一年が経とうとしています。

着任と同時に新型コロナウイルス感染拡大で学生が入寮まもなく閉寮・遠隔授業・分散登校になり寮行事もほぼ開催されないまま前期が終わりました。都城高専の教育現場でも前職での経験をいかし、先生方や保護者のサポートをさせていただき、学生の成長する姿を楽しみに微力ながらも務めたいと思っておりましたが、誰もいない部屋の換気や、食堂の感染対策用の仕切板をダンボールで作成を行いました。この時ほど健康であることが幸福なのだなと改めて思いました。そして、やっと後期が始まり寮に学生が戻ると、本来の活気がもどり、毎日、若いパワーをいただいております。12月にはクリスマス昼食で宮崎牛の提供もでき、学生も喜んでくれました。また、仕事をするなかで私一人ではわからない事もあり、先生方や学生課と総務課の方々、後援会と保健室の皆さまに助けていただきながら今日を迎える事が出来ました。ありがとうございます。

これからも、学生にとって寮が「衣食足りて礼節を知る」の場所になるように心がけながら努力したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

退職にあたって

機械工学科
佐藤　浅次

1980年10月に着任し、2019年３月に退職、その後２年間の再雇用があり40年を超えての勤務となりました。学生として過ごした５年間を加えると45年になります。長い間、本校の教育にたずさわることができ、無事に過ごせたことを大変うれしく思い、関係の皆様に深く感謝しております。振り返りますと、実習工場の技官として着任し、1992年から機械工学科の教員に配置換えとなりました。着任間近のころ、高専祭のイベントとして熱気球をつくりたいとの学生からの相談があり、本体となる球皮の縫製やバーナの製作などで学生と連日夜遅くまで作業しました。大きな球被に四苦八苦した学生との思い出です。部活の顧問としてはロボット製作局、バスケットボール部、野球部に関わりました。その中、ロボット製作局では1992年の第５回大会での「ロボコン大賞」、1997年の第10回大会での「優勝」と大きな賞に恵まれ印象深い出来事でした。1993年から２年間、学生主事補を務めました。当時は学生の交通死亡事故が続き、心を痛めていました。そのこともあり、担任を務める折は機会あるごとに注意することにしています。2015から３年間、地域連携センター長を務めました。この間、霧島工業クラブをはじめご協力いただいた地域の皆様に感謝しています。また、卒業研究、専攻科特別研究に配属された学生のおかげで、新しい研究テーマにも取り組むことができました。学生諸君に感謝いたします。

最後になりましたが、都城高専の益々の発展を祈念します。長い間、お世話になりました。

退任の挨拶

一般科目
野町　俊文

平成２年４月１日本校に着任して、令和３年３月末日を以て31年間務めた本校をお陰様で退職できることに感謝しています。月日が過ぎるのは早く、「少年老いやすく学成りがたし」との教え、まさにそのままでした。だからどうしなさいと言う言葉はありません。必ず老いてゆく理があり、振り返れば道ができるだけです。赴任当時の数学の教員は、高山先生、肥後先生、緒方先生、小塚先生でした。多くの教職員の皆様方のご協力やご支援を頂き、また4800名の卒業生と集いし800名の在校生の手助けをいただき、無事退任することに感謝とお礼を申し上げます。高千穂峰の景色は変わらないように、学校の風景もあまり変わることは有りませんでしたが、昭和39年開校後、建築学科を増設し、専攻科が設置されました。国際化の流れから留学生の編入学を認め、現在も留学生用の寄宿舎を新設し日々進化し続けています。「天災は忘れた頃にやってくる」の言葉にもあるように、平成23年の東日本大震災、平成20年にはメキシコから新型と呼ばれたインフルエンザが流行り、本校では同年10月より21クラスが学級閉鎖となることもありました。昨年の令和２年２月の武漢での新型コロナウイルスの流行が、国内でも徐々に広まっています。未だに収まる気配もなく、今後の動向に、心配を残しての退任となりました。

最後になりますが、都城高専の学生諸君が今後もますます努力して、活躍されることを祈念して、退任の挨拶とさせて頂きます。本当に長い間お世話になりました。

門出を祝して

５年担任　土井　猛志

ご卒業誠におめでとうございます。また、ご家族の皆様におかれましても、心よりお祝い申し上げますとともに、担任として不甲斐なく様々な点でご心配おかけいたしましたこと、誠に不躾ではございますが本紙上にて深くお詫び申し上げます。

ご縁があって皆さんの担任を仰せつかり、早いもので２年が経とうとしています。その間には本当に色々なことがあり、私自身の力不足により大きな不安を感じられることも多かったのでは思います。そのような思いもあり、正直一体何から述べていいのか言葉が見つかりませんが、本稿では、私自身の整理も兼ねてこの２年間を振り返ってみたいと思います。

これまでの２年間において皆さんが参加された行事は、新型コロナウイルス（COVID-19)の影響により５年時はほとんどの行事が縮小あるいは中止となり、随分悔しい思いをされたことと思います。そのような中で、４年時の文化祭における「研究発表」および５年生時の体育競技会における「応援団」は、担任として特に記憶に残る行事でした。

まず、「研究発表」の取り組みに関し、最初のテーマ決定に至るまでの苦悩や葛藤が思い起こされます。いくつもの素晴らしいアイデアが提案された中で、独創性、実現可能性、安全性などあらゆる方向性について話し合い一つの方向性を決定いたしました。しかしながら、その後、他学科の方向性と類似する可能性が高いとの情報が入り、再度話し合い土壇場でテーマ変更となった際には、クラス全員が大きな不安を感じていただろうと思います。しかしながら、責任者数名を中心に少しずつ進め、10月からの本格的な活動に対し上手く軌道に乗せることができたときには、担任として本当に安堵いたしました。その後、可能な限り皆で協力しながら見事に完成まで漕ぎつけ、とても充実した表情で製作物を眺めている姿が本当に輝かしく見えると同時に、うれしさやうらやましさを強く感じた瞬間でした。一方で、プレゼンテーションの準備など並行して進めており、ハラハラしながら見守りつつ、ギリギリのスケジュールの中でよくまとめ上げたものだと感心いたしました。当日は、どの学科も非常にすばらしい発表であった中で、研究内容さらにプレゼンテーション双方とも最優秀賞をいただくことができました。この経験を通して、クラス全員が達成感や喜びを共有し、クラスがさらにまとまる機会となりました。

また、５年生時の体育競技会では、前期が全面遠隔授業であった中で十分な打ち合わせや練習時間も確保できず、また、最高学年として全体をまとめ上げていくことは本当に大変であっただろうと思います。今年度は体育競技会自体が縮小開催となり、例年であれば保護者はじめ多くの観客がいる中での演舞披露となりますが、学校関係者に見守られながらの通常とは異なる雰囲気での演舞となりました。しかしながら、低学年生の中で特に１年生においては初めての大きな学校行事であり、学校生活に希望が見いだしにくい状況であった中で、機械工学科だけでなくどの学科も本当に「今を生きる」演舞を披露してくれたことは、先の１年生だけでなく全ての観衆にどれだけ希望を与えたことか、中心的に取り組んでくれた学生はもとより、それに携わった全ての方々に心より感謝申し上げます。

皆さんもご存じの通り、2020年は４年生から５年生への進級があり、それと並行し本科卒業後の進路を決めていく人生においてとても重要な年でした。一方で、COVID-19の影響により世界的な規模であらゆる仕組みや生活様式、さらには価値観さえも転換していくことが求められる年となり、就職・進学活動においても例外なく手順や方法の変更がありました。そのような中でクラスメイトが亡くなり、クラス全員が深い悲しみに沈み前に進むことさえできなくなるような状況の中で、皆さん本当によく頑張られたと思います。一方で、担任として十分にサポートできなかったことを本当に申し訳なく感じております。

最後に、いつ終焉するかもわからない混沌とした今の状況ではありますが、卒業後も皆さんの溢れんばかりの能力を如何なく発揮され、あらゆる困難を乗り越えていかれることを祈念申し上げますとともに、故人の御霊のご平安をお祈り申し上げ終わりといたします。

卒業おめでとう！そして、新しい旅立ちに乾杯！

５年担任　御園　勝秀

電気情報工学科５年生の皆さん、卒業おめでとうございます！また、この日を心待ちにしていたご家族の皆様にもお慶び申し上げます。私が高専の教員になって13年が過ぎ、４・５年生を受け持つのは皆さんで３回目でした。担任業務も少しは板についてきたかなと思いきや・・・2020年は新型コロナウイルス（COVID-19）という100年に１度の大きなパンデミックに世界が震撼した年になりました。この原稿を書いているのは2021年の正月ですが、現在、全国的に拡大中の第３波は予断を許さない状況です。コロナ禍前の穏やかな生活に一日も早く戻れることを願うばかりです。

卒業する皆さんにとって高専時代を振り返るとどのような歳月でしたか？入学式の時に抱いていた夢や目標は達成できましたか？生涯の友と出会うことはできましたか？・・・きっと、高専入学時に思っていたよりも瞬く間に駆け抜けた、それでいてかけがえのない５年間だったと思います。また、最終学年では新型コロナウイルス関連のニュースが流れない日は無く、皆さんの学生生活も大きく変化しましたね。前期はほとんどの授業が遠隔となり、課外活動も大きな制限を受けました。後期になって対面授業が再開されたものの、秋の一大イベントである体育競技会は縮小、文化祭は中止になりました。そんな中、５年生は「進路を決めて卒業する」という大切な１年でしたが、就職にしろ、進学にしろ、試験日や試験方法が変更になったり、面接が対面からオンラインになったりしたため、皆さんが新しい様式に上手く対応できるか心配していました。しかし、さすが５Ｅ！そのような新しい選考方法に臆することなく積極果敢に取り組んでいたので、頼もしく感じた１年でもありました。

卒業される皆さんは平成生まれですが、令和という新しい時代に卒業することになります。社会に出る人も、進学する人も、自分で選んだそれぞれの道を邁進し、新しい時代の発展に大きな足跡を残すことを祈念します。

さて、皆さんは今日まで色々な人と出会ってきたと思います。その中でも、学生時代に出会った友人は一生の宝です。社会に出て20年、30年と経っていくと、必ず役職や給料で差がついてきます。しかし、学友はそのような差を超えて対等に話ができる存在です。困ったときは真剣に相談にのってくれ、息抜きにバカな話ができるのも学友です。同じようなもう一つの存在は同期です。皆さんがこの４月に出会う同期を大切にしてください。それから、自分の師と仰げる人を社内外に見つけてください。また、自分のライバルと呼べる人を社内外に持ってください。片思いで結構です。良い師・良いライバルとの出会いは皆さんを動機づけ、そして成長させてくれます。

最後になりましたが、今後の皆さんの健康と活躍を願い、餞の言葉を贈ります。私が愛用している湯呑み茶碗に書かれている、故吉田貞雄氏の「夢八訓」です。皆さんが大きな夢にチャレンジし、年を重ねるごとに成長していくことを心より祈念します。皆さんの新しい旅立ちに乾杯！

「夢 八 訓」

夢のある者には希望がある　希望のある者には目標がある
目標のある者には計画がある　計画のある者には行動がある
行動のある者には実績がある　実績のある者には反省がある
反省のある者には進歩がある　進歩のある者には次の夢が生まれる

卒業によせて

５年担任　福留　功博

物質工学科５年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆さまにも併せて心よりお祝い申し上げます。これまで４・５年生の担任を幾度か務めて参りましたが、この１年は、これまで経験したことのないことを多く経験した年でした。就職活動は殆どがWeb面談となり、学生の皆さんも苦労したと思います。そのような中で何とかクラス全員が進路先を決定することができました。このことは、皆さんの努力と実力はもとより既に企業・大学等で皆さんのOB、OGさんが高い評価を頂いているお陰もあると思います。担任としてもOB、OGさんのご活躍には『感謝』するばかりです。

校内では、高専祭等多くの行事が中止となり、不慣れな遠隔授業が始まり、これまでのスタイルは無くなりました。何よりあらゆる場面で対面が果たせないのにストレスを感じたと思います。何気ない日常を送ることがなんと幸せなことなのだろうと感じた人は多いと思います。夏にはいくらかコロナも落ち着き、後期からは登校して授業を受けるスタイルが戻ってきました。しかしながら部活動をはじめ多くの活動に制限がある中でのスタートとなりました。久しぶりに会うことのできた学生からは今年は思い出といった思い出が無い年だったとよく言われました。確かにこれまでのような思い出はありません。しかしながら体育競技会などはこの時代に沿った形で何とか実施されました。この時代は、機会こそ少なかったですが学生の皆さんが制約のある中で何か楽しい思い出を創り出そうとしたことをまさに思い出として欲しいと思います。そういう意味では体育競技会など体育競技会実行委員の皆さんの思いが本当に伝わる形の２度と無い体育競技会であったと思います。この場を借りて体育競技会実行委員の皆さんに『感謝』申し上げます。個々の学生の皆さんも体育競技会の中で応援演舞等、学科、クラス一丸となり楽しんだのではないでしょうか。こんな限られた中で人を楽しませよう、自ら楽しもうとしたことを『思い出』として欲しいと思います。私自身も2020年12月25日の昼休み、５Ｃのクラス皆で三角チョコパイを誰もしゃべることなく黙々と食べ、そのあと全員がマスクを付けて記念写真を撮ったことを『思い出』としたいと思います。

コロナのあとの世界は非常に厳しいものだと思いますが、ポジティブに物事を解釈し、『感謝』の気持ちを忘れず歩んで下さい。人類最大のピンチでしたが、その後の最大のチャンスをつかむことのできる技術者へと成長して下さい。皆さんの華々しいご活躍を心より祈念いたします。

ご卒業に向けて

５年担任　中村　裕文

まずはご卒業おめでとうございます。

皆さんとイレギュラーでしたが３年生の時から三年間（中には四年間の人も居ますが：笑）担任を勤めさせていただきました。ありがとうございました。

ふりかえってみると、この三年間は本当にいろんなことがありました。

平成が終わり令和になり４年生の終わりから５年生の一年間は新型コロナウイルスのために学校行事も学びも全て振り回されました。貴重な学生時代の最後を学校行事の中止や縮小、自粛におわれ自宅学習で苦労したことと思います。卒業研究の追い込みの時期にも登校が停止され、思うように研究にとりくめず悔しい思いをしたかと思います。しかしそれも、やがて皆さんの人生の中で貴重な思い出へと変わっていくと思います。

５年時の高専祭は中止となりましたが、３年時の高専祭での教室発表、４年時の文化祭での研究発表ではみんなで一丸となって連日製作に取り組んでいました。研究発表で建てたパビリオンは、残念ながら研究発表では最優秀はとれませんでしたが、決して他学科の発表に負けていない素晴らしいできでした。

体育祭では普段授業中あまり元気がない皆さんも、なぜか気力がみなぎるようで３年４年の時も出席率はよく、さらに５年生の時は競技数も減らし、観覧も制限しての実施でしたがクラス全員出席で結果全員参加の記念撮影ができました。

残念だったのは、４年生の終わりの春休みの研修旅行です。例年関西の歴史的建築を見に行っていましたが、あらたに沖縄の現代建築を見に行く計画を立てました。沖縄は美ら海水族館や沖縄コンベンションセンターなど現代建築の宝庫ですし、日本国内でもっとも新しい新交通システム（ゆいレール：モノレール）が整備された県です。きっと有意義な研修になると思っていました。しかし一昨年から世界的に流行が拡大しつつあった新型コロナの感染者が沖縄で確認され直前で中止することにしました。今でも残念でなりません。

５年生になって新学期の授業開始からすぐ、宮崎県内でのコロナ感染者数増加で遠隔授業になるなか、皆さんは就職・進学に臨み、遠隔での面接、本社での最終面接をこなし次々と内々定・合格を獲得したとの連絡をネット経由でもらった時は誇らしい気持ちでした。就職進学についてはこの情勢下でも順調に進みましたが、遠隔授業では皆さん１人１人の様子をうかがうこともできず、心配していましたがようやく夏休みが明けて登校が再開され、皆さんの顔を見たときはほっとしました。

コロナウィルスの状況は、ワクチン接種も予定され、これからきっと良くなると思います。しかし、どのような状況であっても建設産業は建物を建て、保守を行っていかなくてはいけません。都城工業高等専門学校建築学科で学んだことはこれからの仕事の基礎になります。皆さんの学びはこれからが本番です。大変なこともあるかもしれませんが学校の学びで苦労したことをバネにしっかりと立ち向かってください。

４年生の文化祭の研究発表

４年生の体育祭

３年生の体育競技会

今後の活躍を祈念して

専攻主任　白岩　寛之

専攻科機械電気工学専攻（機械系）２年生の皆さん、修了誠におめでとうございます。また、ご家族の皆様に心よりお祝い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行という、１年前には予想だにしなかった災禍が発生し、その第３波が宮崎県にも直撃する中、本拙文を執筆しています。

今年度は本校でもコロナ禍により遠隔授業が行われ、皆さんの勉学や研究活動などに大きな影響がありましたが、本科５年間と専攻科２年間の計７年間の高専生活を振り返ると、ものづくりのために欠かすことのできない多くの知識と技術が身に付いたことに気付かされることと思います。特に本科５年の卒業研究から専攻科の特別研究と３年間にわたる研究活動を通して、自ら考え能動的に行動する力やチームワーク力が培われたのみならず、未知なる事象を探求することのおもしろさの一端を感じたことと思います。専攻科修了には学外での研究発表が必須となっており、皆さんは研究成果を活発に発表していたことが印象的です。例えば、日本機械学会九州支部宮崎地区第11回学生研究発表会（宮崎市、１名）、International Workshop on Fundamental Research for Science and Technology 2018（バンコク（タイ）、３名）、International Workshop on Fundamental Research for Science and Technology 2019（ホアヒン（タイ）、１名）、The 13th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics（高雄（台湾）、１名）、The 14th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics（つくば市、２名）、The ８th International Joint Symposium on Engineering Education（釜山（韓国）、１名）The ５th Thai-Nichi Institute of Technology Academic Conference（バンコク（タイ）、１名）、第26回日本高専学会年会（オンライン、１名）などで発表し、そのうち数名は賞を受賞するなど、素晴らしい研究成果を挙げました。

進路については、５名中３名が就職、２名が進学となりました。様々変化する社会情勢の中で、今年度は特にコロナ禍で多くの企業がWeb面接を実施するなど、対応に苦慮することが多々あったかと思いますが、各人が誠実に就職活動に取り組みました。就職先は、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社、ENEOS株式会社、出光興産株式会社となりました。一方進学については、熊本大学大学院（自然科学研究科機械システム工学専攻）および東北大学大学院（工学研究科航空空宇宙工学専攻）に進学することになり、両名とも専攻科からある程度の継続性を持って研究活動に取り組めることと思います。皆さんの今後の活躍を期待しています。

現状ではコロナ禍の先行きは見通せませんが、過去の世界的な感染症の大流行を振り返ってみると、その前後で社会の在り方が大きく変化しています。皆さんがアフターコロナないしウィズコロナの社会構築に貢献できる技術者になってくれるものと信じています。

高専では知識や技術のみならず、クラスメイトや部活動のメンバー、教職員などの他者との関係において、コミュニケーション能力や協調性など自己を形成する様々な能力が育まれたことと思います。これまでお世話になった多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに、高専で培った様々な能力をいかんなく発揮し、まさに新しい時代の担い手として、何事にも情熱を持って取り組み、今後大いに活躍されることを心より祈念いたします。

君達との出会いと今年一年を振り返って

専攻主任　赤木　洋二

今年の専攻科２年生が本科３年生のとき、全国の高専の中でも先頭を切って本校が主催して10月に行ったアイデアソンに参加してくれたのが、内村君、遠矢君、平川君でした。(報告書：http://www.bonchi.jp/kic/docu/onedaysprints.pdf)その後、我々より少し遅れて１月に函館で行われた高専機構主催のアイデアソンに遠矢君と平川君が参加し、この頃より、私はこのクラスの学生を期待しながら見ていました。翌年11月には同じく函館でハッカソンが開催され、さらに内村君、平川君が参加し、ともに企業賞をそれぞれがダブル受賞しました。さらには海外での研修や企業見学などにも積極的に参加し、様々な経験を積んでいました。５年生で研究が本格的に始まると、産業技術総合研究所で研究を行なった内村君、専攻科１年生の時、プロコンの課題部門で敢闘賞を受賞した遠矢君、平川君、中国で開催された太陽光発電の国際会議で発表を行った内村君など、これまでの経験を研究に生かし、さらに成長してきました。その一方で、本科５年生の時に、内村君、公文君、平川君、湯之前君は、小・中学生ロボコン予選大会の運営に関わってくれたり、専攻科１年生の時には、内村君、公文君、遠矢君、平川君が、中学生に自由研究の指導を行うなど、多方面で活躍をしてくれていました。

そして、今年、縁あって、上記５名に、寡黙ながらも難解な専門用語操る吉永君を含めた６名の専攻主任(担任)となりました。この担当の最も重要な仕事が進路指導です。一人一人からしっかりと話を聞き、それぞれにあった進路を考えていきますが、今年度の学生は、上述した通り、高専の６年間で様々な経験をしていることから、いわゆる自分探しも上手で、比較的スムーズに進路先を選ぶことができました。しかしながら、自分をアピールすることや研究内容を伝えることには不慣れなため、この部分に注力し指導を行いました。その結果、東北大学、北陸先端大学院大学２名、総合研究大学院大学(核融合研究所)、九州大学、重電機メーカー最大手の富士電機と６名全員が第一希望どおりとなる大学院の合格や企業への内定をもらえました。近年は、大学であっても成績だけでなく様々な活動の実績や進学の目的なども重視しているため、彼らの様々な経験が自らの進路を切り開く大きな要因となったのだろうと考えています。

さて、話は変わりますが、今年は新型コロナウィルスの感染拡大により、それ以前には誰もが想像し得なかった大きな変化がもたらされました。学業の面での話をすると、前期は、一部、分散登校を行ったものの、基本的に授業は遠隔で行われ、８月までは研究もまともにできない状況でした。後期は、例年通りの対面での授業が開始されたものの、１月になって再び遠隔授業となり、その結果、特別研究発表もTeamsを用いた遠隔での発表となりました。慣れない遠隔授業や外出禁止のような雰囲気の中、精神的にも大変な状況だったのではないかと思います。しかしながら、社会を見渡すと、都会では、突然、リモートワークで仕事を行なっていかなければならなくなった企業も多いようで、学生の様々な状況に学校側が配慮を行いながら実施してきたものと比べると、成果を必要とする企業とは大きな違いがあるものと想像できます。そのように考えると、まだ学生のうちにこのような経験ができたことが、少なからずともプラスであったと見ることもできます。企業であろうが学校であろうが、大事なのは、その時に起きている(大きな)問題に対して、その問題をよく理解し、どのようにすれば対処できるか考え、実行することと思います。飲食業で見ると、業態をテイクアウト専門とする、(仕入れた)食料を直売する、ネット販売するなどで活路を見出しているお店、(リモートワークにより、)突然、仕事場を準備しなければならなくなったサラリーマンに対して、空きスペース(フロアー)を共同の仕事場として提供する不動産会社や、仕事場としても利用できるとキャンピングカーを売り出している車販売店、ワーケーションとして自然豊かな地域のホテルなどを売り出す旅行会社など、コロナによって生き残りをかけて業態等の変更をする企業もあれば、このピンチをチャンスと捉えて新たな顧客を獲得しようとする企業など様々で、少なくとも何もできない(しない)会社は淘汰されていくのだと思います。専攻科修了後、それぞれの道に進みますが、何があっても、前向きにプラス思考で、今できることを考え・実行できる人間になっていってほしいと思います。修了生の今後の活躍を祈念いたします。

修了に寄せて

専攻主任　清山　史朗

物質工学専攻修了生の皆さん、専攻科修了おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましても、お子様の修了を心からお祝い申し上げます。

皆さんが入学した平成26年にどんな出来事があったかを調べてみると、冬季オリンピックソチ大会、消費税率の８％への引き上げ、富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産への登録など、今考えると非常に昔のことに思います。また、当時、私は専攻科長を担当しており、平成27年度からスタートした専攻科の学士の学位の授与に係る特例の適用認定、所謂、特例認定専攻科向けた審査、平成28年度に審査を受けた技術者教育プログラム（JABEE）の資料作りに追われていたことを思い出します。

皆さんは、人生の成長が著しい７年間をこの都城高専で過ごしました。最初は、非常に簡単な内容からスタートした実験も学年を追うごとに専門的になり、４年生では、通常の19歳では取り扱うことのない高額な分析装置を用いた実験を行ったり、５年生では１年間を通して行った卒業研究を論文としてまとめ、立派な卒業研究発表を見せてくれました。私の高専赴任当初からの感想ですが、高専生は５年間のうちに（知らない間に）立派な技術を身につけていると感じます。特に卒業研究を経験すると、体が技術を覚えているような感覚を受けます。これらを経験した皆さんは専攻科へ進学し、更に自分を高めようと努力してきたと思います。専攻科では、これまでに経験したことのない、他専攻の学生と協力してものづくりを行う、創造デザイン演習や、必修項目である、実務実習、学会発表等を通して、多くの困難や苦労に直面したかと思います。多くの失敗や苦労は、自分を成長させてくれます。

話は変わりますが、今年度は新型コロナウィルスの影響ですべてが通常とは異なってしまいました。年度当初から授業がスタートできず、５月に授業が始まっても、これまで経験したことのない遠隔授業でした。また、研究する時間を奪われ、半年間、何もできなかった人もいるでしょう。更に、殆どの学会発表が中止または延期となり、学協会での発表機会を奪われた人もいます。しかし、これらもすべて経験だと思ってください。将来、何かしらの形で生かされると思ってください。

今後，皆さんは都城高専を修了し、５名が就職（中外製薬工業（株）、DIC（株）、住友ゴム工業（株）、日東電工（株）、沢井製薬（株））し、２名が進学（東京工業大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学）となりました。中学卒業以来、７年間という長い間、同じ場所にいた皆さんにとって、新しい環境に向かうことは大きな不安があることと思いますが、これも経験です。

最後に、専攻科生、本科生問わずに、卒業生には同じ言葉を贈っていますので、それを書いておきます。若いうちに多くの失敗を経験してください。失敗はチャレンジしなければうまれません。チャレンジ精神のない人と仕事をしたいと思う人はいません。若いうちに多くの雑用をこなしてください。雑用も仕事のうちです。雑用さえできない人に大きな仕事は任せられません。10年後、20年後に皆さんが幸せに生活していることを切に願います。

建設現場でのコミュニケーション

専攻主任　山本　剛

卒業おめでとうございます。７年間の高専生活はいかがだったでしょうか。

４、５年時に担任をしましたので、皆さんとは４年間の付き合いになりました。５年の担任が終わるときに皆さんの成長ぶりに驚きましたが、専攻科の２年間で学生から技術者への変身した姿にはさらに驚いています。１月に実施した特別研究Ⅱの発表会はオンラインでの開催でしたが、スピーカーから聞こえてくる息づかいに、皆さんの自信と情熱を感じました。

建築業界も皆さんが入学した頃に比べると大きく変わりました。建設技術にはＡＩやロボットが導入され、設計ツールの主流は２Ｄ ＣＡＤから３Ｄ ＣＡＤへ変わりました。最近ではＢＩＭを導入する企業も増えてきています。労働環境も大きく変わりました。施工現場では３Ｋというワードは消え、時間外労働の上限規制の適用開始、女性も活躍できる職場環境の整備等、魅力的な職場へと姿を変えつつあります。2020年３月１日には改正建築士法も施行され、建築学専攻の修了生は実務経験を経ることなく一級建築士を受験できるようにもなりました。これからも続々と新しい技術が登場し、建設業界は変わり続けていくことでしょう。見方を変えれば、若い人たちへの期待が高まっており、皆さんにはこれまでにない活躍の場が与えられているということです。積極的に発言や行動をしていきましょう。

建築学専攻の修了生が就職先で期待されていることは、リーダーとしての活躍です。指示されたメニューを消化するのではなく、チームの中心人物としてプロジェクトを進めていかなければなりません。施工現場であれば、安全管理・品質管理・工程管理・原価管理・環境管理を総合的にマネジメントしていかなければなりません。建物の建設には多くの業種・職種の人が関わってきますので、コミュニケーション能力の向上は欠かせません。就職担当の業務を通して多くの人事担当者との面談の場がありましたが、コミュニケーション能力の重要性について触れない会社はありませんでした。

「建設業でのコミュニケーションとは何をすることですか」と質問されたらどのように答えるでしょうか。広辞苑でコミュニケーションの定義を調べると「社会生活を営む人間の間に行われる知覚・感情・思考の伝達。言語・文字その他視覚・聴覚に訴える各種のものを媒介とする。」とあります（出典：広辞苑，1984版）。建設業界のコミュニケーションの特徴の一つは図面を主媒体として情報の伝達をする点でしょう。図面を読む力・描く力に加えて、図面を用いてコミュニケートする能力が必要となります。コミュニケーションの相手はクライアントから協力会社、官公庁等、多岐にわたりますが、それらのコミュケーションの相手とは長期の付き合いになるのが普通ですから、コミュニケーションを通して相互の信頼関係を築き上げていくことが極めて重要になります。

皆さんが発注者側だとして、次のような図面や書類を受け取ったらどういう気持ちになるでしょうか。「誤字脱字がある」「仕上がりが雑である」「要点が明瞭でない」「提出が期限ぎりぎり」この人と一緒に仕事がしたいですか。この会社の仕事のクオリティを信用できますか。ビジネスの世界では競争相手がいる中で勝ち残っていくタフさも要求されるわけですが、すでに相手に会う前に勝負が決まっていることも多いようです。図面等の製作物を通して仕事のクオリティを評価されてしまう。仕事への姿勢や投入したエネルギーが図面やレポートを通して伝わってしまうのです。言葉を発しない場面でもコミュニケーションが継続していることを頭に入れておきましょう。基本的なことですが、何事でも基本の修得には時間がかかるものですから。

皆さんがコミュニケーションを通して作りあげる建築物は何十年も地上に残り、多くの人に役立つことでしょう。また、そこで発揮される発想と行動力は地球温暖化や高齢化社会等の社会的課題も解決していくことでしょう。自信をもって毎日を過ごしてください。皆さんの成長と活躍をお祈りしています。

卒業記念

高専生活をふりかえって

機械工学科５年　星﨑　翔太

５年間、長いようで短い高専生活でした。あっという間の５年間でしたが、人生の中で最も充実し、成長できた５年間だったのではないかなと思います。

私は１年生から５年生まで学級副委員長を務めました。学級副委員長というと学級委員長とともにクラス運営を行っていくべき立場の役職です。しかし私は５年生になるまで、出席簿を運ぶことと評議会に参加するという事務的な仕事だけ行い、クラス運営にあまり関わってこなかったように思います。５年生後期になると学級委員長が入院することとなり、それまで委員長が行っていた仕事を私が代行することとなりました。そこで初めて委員長の辛さというものがわかりました。この経験を２・３年生のときにできればもっと良かったかもしれません。後輩諸君、委員長は大変です。できるだけ、仕事を手伝ってあげてください。

私達のクラスを振り返ってみると、独特な雰囲気があったなと思います。個性的なメンバーばかりで、みな付かず離れずそれぞれが絶妙な距離感でつながっていました。高専生らしいといえばそうなのかもしれません。

今年度は新型コロナウイルスの関係で非常に変則的な年でした。遠隔授業における課題提出の大変さはありましたが、定期試験の一発勝負に対し比較的単位が取りやすかった反面、貴重な学生生活（青春）を失ったような気がします。明るい話題が少ないご時世ですが、私達５年生は来年度より高専を飛び立ちそれぞれの道へ進みます。高専で学んだことを生かして、社会の役に立てる人間になりたいと思います。

最後になりますが、この５年間でさまざまな人にお世話になりました。クラスメイト、先輩後輩、担任の土井先生をはじめとする先生方そして家族。たくさんの方々のおかげで、５年間非常に充実したものになりました。心から感謝しています。本当にありがとうございました。楽しい高専生活でした。

まるで高専を去るかのような感じで文章を書いていますが、私の進路は専攻科です。あと２年間どうぞよろしくお願いいたします。

“５年間”というたからもの

電気情報工学科５年　児玉　聖

中学の３年間もあっという間でしたが、それ以上に高専で過ごした５年間の方がずっと短く感じました。それほど充実していたのだと強く思います。

自分にとってこの５年間は今振り返ってみると、勉学における成長は勿論ですが、人付き合いにおいて大きく成長できたのではないかと思っています。中学生までは同年代との接し方に苦労していましたが、高専に入ってからは友人にも恵まれ、本当に楽しい学生生活を送ることができました。自分のことを理解し接してくれたクラスメイトや友達、先輩方や後輩には感謝しかありません。

入学してすぐに入院してしまったことは今となっては良い思い出です(笑)。退院して登校したときにはある程度クラスの雰囲気が温まっていた頃だったので、ここから友達が作れるだろうかと不安になったこともよく覚えています。退院後最初の登校日に声をかけて輪に入れてくれた友人は、なんと同じ就職先になったのです。面白いめぐり合わせですね。

４年生の時に文化祭で行われた研究発表も強く印象に残っています。約15分の発表には、数か月にわたるクラス全員の努力が詰まっています。クラスで作り上げたものを大勢の前で発表することには責任が伴いましたが、凄く楽しんでプレゼンを行えたことは自分にとって大きな自信に繋がりました。

高専生活最後の年、新型コロナウイルスの影響を受け前期はすべて遠隔での講義となりました。慣れない講義形態に最初は戸惑いと不安もありましたが、友人と教え合い助け合いながら乗り切ることができました。前期に登校できなかった影響から、卒業研究も納得のいく成果を上げることができませんでしたが、これもまた良い経験になったかなと思います。

最後になりますが、ご指導頂きました教職員の皆様に厚く御礼申し上げます。また、楽しい高専生活をくれたクラスメイトの皆さん、本当にありがとうございます。皆さんの卒業後のそれぞれの進路を応援しております。そして何よりも、常に私をずっと支えて下さった両親に深く感謝致します。

卒業記念

オ リ ジ ン

物質工学科５年　清水　龍生

　題名は、現在週刊少年ジャンプで大好評連載中の漫画、皆さんご存知「僕のヒーローアカデミア」から引用したものです。

「学校の近くにマンガ倉庫あるらしいよ。」僕が高専に入学することを決めたのは、現学生会長であり僕の幼馴染でもある、物質工学科５年喜多竜作にこう言われたことがキッカケです。こうして僕は高専に入学したわけですが、正直、入学当初は高専を好きでもなく、むしろ無関心に近い感情でした。あ、それはそうと、好きの反対は無関心と初めに言った人はちゃんと地獄に落ちたでしょうか。「悪意を持って人と関わることが関わらないより正しいなんてあり得ない。」と思います。これは、現在週刊少年ジャンプで大好評連載中の漫画、皆さんご存知「呪術廻戦」から引用したものです。

しかし、高専での５年間は僕を日々成長させてくれるものでした。寮生として入学したことで先輩後輩との上下関係の大切さ、定期テストで時間の有用性とその使い方を学ぶことができました。これらの経験は高専でしか学ぶことのできなかった、すごく貴重でかけがえのないものです。そんな高専に感謝。社会人になってからは、「一日一万発感謝の正拳突きをしたい」と思います。これは、現在週刊少年ジャンプで大好評休載中の漫画、皆さんご存知「HUNTER×HUNTER」から引用したものです。

最後の一年間はコロナの影響で、学校に行くこともできず、辛い日々を過ごしました。５年生らしい一年間を過ごせたかと言われると、そうではないかもしれません。ですが、それでも高専での日々は毎日が充実したもので、最高の５年間でした。最後にこれだけは言わせてください。「…先生…みんな…！そしてお母さん…今日までこんなどうしようもねェおれを 鬼の血を引くこのおれを…！愛してくれて…ありがとう！！！」これは、現在週刊少年ジャンプで大好評連載中の漫画、皆さんご存知「ONE PIECE」から引用したものです。

ご愛読ありがとうございました！清水龍生の次回作にご期待ください！

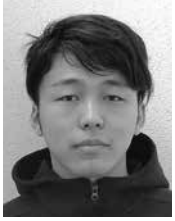
素晴らしい部活動体験

建築学科５年　川﨑　壮士郎

　部活動及び、同好会活動にて体験した様々な活動をここに記していこうと思う。私は部活動として吹奏楽部に、同好会活動として軽音楽部に所属していた。思えば私の学生生活は音楽活動一色だったように思う。夏になれば吹奏楽コンクールに向けて部員一同一丸となって練習に励み、打楽器のパートリーダーとして後輩を指導したりした。本番直前、舞台搬入口の茹だるような暑さの中打楽器の組み立てを行い時間になればそれを涼しい舞台裏へ持ち運び、やがて本番を迎える。毎年課題曲と自由曲を一曲ずつ演奏した。緊張の瞬間である。音楽とは残酷なもので散々練習したからと言って本番に完璧な演奏ができるとは限らない。それでも私たちは本番の日時に向けてただひたすら練習を行う。この努力が報われて２年前の2018年に九州大会へ進出することができた。この時の感動は今でも私の脳裏に強く印象付けられ、残っている。この時私たちは自由曲にアニメ「千と千尋」を題材にした名曲「スピリティッドアウェイ」を選んだ。曲を演奏するにあたりアニメのシーンから連想される情景を思い浮かべながら音色を試行錯誤する日々を過ごした。その練習風景は今思えば真剣そのものであったように思う。衝突が無かったと言えば嘘になるがこの日々の練習で得た経験は間違いなく今の私の人生の糧になっていると確信している。指導者である下田さん、コーチである赤塚さんに深く感謝申しあげる。

と、ここまで吹奏楽の活動について書き連ねてきたが同じくらいに軽音同好会での活動も思い出深いことがたくさんあった。多い時で４組のバンドのドラマーを担当し、宮崎や都城のライブハウスでライブを行ったり文化祭ライブに出演したりした。曲に合わせて観客が歌ってくれたり曲の終わりに歓声や拍手をもらうのはとても気持ちがよく、音楽をやる意義を毎回確かめることができたように思う。社会人になってもこの学校で得た経験を活かし、出会う人を大切にして音楽活動を続けていきたいと思う。

修了記念



専攻科修了にあたって

機械電気工学専攻２年　結城　秀麻

本科の５年間と専攻科の２年間を合わせて７年間の高専生活が終わりを迎えてきました。７年間というと非常に長く感じますが、振り返ってみると短い期間だったように感じます。

入学当初、一番苦労したことは寮生活に慣れることでした。かつて、高千穂寮では、入寮初日に学科ごとに先輩方からの指導がありました。この指導で、上下関係や規律を守ることの大切さを学ぶことができました。また、共同生活で生じる不自由さを沢山感じましたが、みんなで協力しあいながら定期テストやレポートを乗り超えてきたことは、今では最高の思い出となっています。

専攻科入学当初は、慣れ親しんだ環境でじっくりと研究に取り組める時間があると考え、進学しましたが、そういうことはなく日々何かに追われるような感覚がありました。特別研究に加え、専門性の高い授業、創造デザイン演習など課題をこなすことはとても大変でした。

私が本科５年生から所属する高橋研究室では、多くの国際学会に参加する機会があり、３年間を通して５度の研究発表会に参加しました。中でも印象に残った研究発表会は、専攻科１年次の筑波で開催された14th-ISEMの国際シンポジウムでのポスター発表でした。ポスターは全て英語で作成し、当日の発表および質疑応答も全て英語で行うための様々な準備を行い発表に臨みました。結果としては、CASIO Challenge Award賞を頂くことが出来ましたが、的確な回答や研究内容を説明することが出来ず悔しい思いをしました。この経験を糧に英語力、プレゼンテーションの向上を図っていきたいと思います。

最後になりましたが、中学校を卒業し、親元を離れて始まった高専生活は大変苦難なものではありましたが、その度に丁寧なご指導いただいた高橋明宏教授をはじめ、親身に相談にのってくれた教職員方々、友人、そして陰で支えてくれた家族の助けが無ければ今はなかったと思います。本当に感謝に尽きません。

修了に寄せて

機械電気工学専攻２年　平川　将綺

「新入生起立」

この呼びかけに対して、専攻科生が誰も立ち上がらなかった入学式が印象的だ。専攻科生の多くは本科からの持ち上がりで「新入生」という意識が低い。先生に促されて、「そうでしたそうでした」と本科新入生に遅れて立ち上がったあの日から、僕たちの専攻科生活が始まった。

就職倍率の高さに惹かれて高専に入学し、本科を卒業したら就職するつもりだった自分が専攻科修了に寄せて作文していることが信じられない。なぜ進学したかというと、本科で学位をもった先生方と接するうちに、自分の能力はまだまだで、進学してより深く学びたいと感じたからだ。はじめは情報系を標榜して大学編入を志したが失敗し、後期入試で専攻科に拾ってもらった。

大学に行けなかったことは残念だが、専攻科で良かったと思うこともあった。まずは選択科目の密度の高さ。選択科目の受講生は少なくなりがちだ。例えば中国古典学の受講は２名で、半期のところを延長して１年間、膝を突き合わせてディスカッションしながらカオスの世界に没入した。また、研究のテーマでもあるプラズマについても、1年を通してマンツーマンで授業をして頂いている。これは専攻科ならではの贅沢な時間だと思う。

そして専攻科特別研究。４年制大学より研究期間が長いことが専攻科のウリだが、学生数が比較的少なく、７年間一緒にいてコンテクストを共有していることから指導の密度も高い。僕は研究室に通いつめ、本当に基本的なことから、丁寧に指導していただき感謝の念が尽きない。

僕は来年から、博士課程学生として岐阜県の総合研究大学院大学（核融合科学研究所）に行く。地元に高専がなければ、そして高専で尊敬する師に出会うことがなければ、絶対に視野に入っていなかった進路だ。博士課程進学にはたくさんの困難が伴うと思うし、後悔する未来も必ずある。でも、高専に入学したときがそうだったように、今は想像できない経験と成長があると信じている。博士課程進学が幸か不幸かはわからないが、向上心を与えてくれた先生方と都城高専の存在に感謝している。

修了記念

高専生活を振り返って

物質工学専攻２年　　岩川　凌

専攻科での２年間を振り返ると自分を見つめ直すいい時間であったと思います。本科の時、私は就職することに強い不安を覚えていました。この不安な気持ちのまま社会に出てしまえば、きっと後悔すると思い、専攻科に進学しました。このような逃げの気持ちで専攻科に入学しましたが、専攻科での日々はとても自分の身になるものでした。専攻科では４つの学科からの学生が共に学び、過ごすことで多くの刺激を受けることができました。ここで得られた経験はこれからの人生できっと役に立てられると思います。本科に比べて専攻科の授業数自体は少ないため、本科以上に研究に打ち込める時間が増えました。しかし、研究がいつも上手くいくとは限りません。これまでに多くの失敗をしてきました。しかし、そのたびに助けてくださった先生、協力してくれた研究室のメンバーのお陰でここまで続けることが出来ました。また、就職活動では自分の将来の目標などについてあれこれと試行錯誤しました。私は、人に相談することが苦手で、よく独りよがりな考えに陥ったり、無駄に自分を追い込んだりすることがありました。その中で自分が成長できたのは、相談に乗ってくれる家族や友人の存在が大きかったです。周囲の人たちの多くのアドバイスがなければ間違った選択をしていたかもしれません。そうやって何度も助けられました。それを繰り返しているうちに、私はすぐに悲観的な考えに陥ることをやめました。自分一人では解決できない問題がある時、すぐに周りに相談するようになりました。これからの人生で、この経験は非常に大きな意味を持つ成長につなげてくれたと思います。

最後になりますが、今までご指導頂いた先生方、共に学生生活を過ごした友人、常に支えてくれた家族に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

高専生活を終えるにあたって

建築学専攻２年　　徳留　光祐

７年前、緊張と不安を抱え入学したのをつい昨日のように思い出します。専攻科を修了するに当たり、振り返るとたくさんの思い出ができました。

中でも非常に印象深く残っているのは、ベトナムに短期研修へ行ったことです。現地で過ごしたのは約５日間という短い期間でしたが、初めての海外ということもあり、多くの経験を得ることができました。その一つが、自分の持っている英語力でベトナムの学生と会話できたことです。これは私にとって大きな自信となりました。他にも、寺院など建築物の見学を通してその国ならではの建物の特徴や、文化など、日本では学ぶことができない多くのことを肌で感じることができました。

入学当初、私は専攻科へ進学する予定はなく、就職したいと考えていました。進学すら考えていなかった私ですが、先輩方の姿を見て専攻科生への憧れを持ち、進学という道に進むことを決めました。専攻科に進学した後は、より専門性の高い授業を受けることができるだけなく、研究に集中する時間も増えました。しかし、専攻科２年次の前期は、新型コロナウイルスの影響によって遠隔授業となってしまいました。慣れない形式の授業で、少々理解に苦しむ授業もありましたが、自ら考える時間が増え、ゆとりを持って学習ができたことが２級建築士に合格できたことにつながったと思います。

これから私は社会人として、新たな一歩を踏み出します。今後は、都城高専で学んだことを糧に技術を磨くことのみならず、自ら問題を見つけ、周囲とのコミュニケーションを取りながら道を切り開いていける技術者になりたいと思います。

最後になりますが、これまで親切にご指導いただいた先生方、何不自由なく学校へ通学することを支えていただいた家族の皆様、ともに切磋琢磨した友人たちに感謝申し上げます。ありがとうございました。

機械工学科４年　『このような状況下で』

岩佐　塔哉

私たち４年機械工学科は男子39名、女子１名、計40名の賑やかなクラスです。担任の髙木夏樹先生のもと日々学校生活を送っています。学生生活で一番楽しく一番忙しい４年生のはずでしたが、今年はコロナ禍ということでほとんど学校に行けていません。

勉学面ではそのような状況下ということもあり、専門教科も増え、難しくなる一方で、授業はオンデマンド方式の遠隔授業。自主性の有無で成績の差が広がっているように感じています。ゼミや創造設計など自主性や協調性が問われる授業も多くなってきました。テストも約１年ぶりということもあり、クラス全体的に成績があまり奮わなかったと思います。

学校行事でも４年生が主体となって行う文化祭の中止、体育祭やクラスマッチの時間短縮などイベントもほとんど行えず他学科、他学年との交流もほとんどありませんでした。準備を３年生後半から動き出していたイベントもあり、とても残念でした。

４年生の一番大きい活動ともいえるインターンや企業説明会などの企業研究も思うように活動できず、行えている人そうでない人の差も広がっているように感じます。みんなで切磋琢磨し、意識を上げていかなければならない状況ですが、学校もなくクラスの短所でもある、『危機感がない』という所が仇となり、例年であれば、ほぼ全員インターンを行なっているはずですが、行えていない人もおり、就職進学に対する態度が思うように盛り上がっていません。企業研究でも、企業説明会に参加している人数は一桁とかなり少ない状況です。

学生生活も残り１年ということもあり、ラスト一回という行事も多くなってきました。一年間、学ぶ機会やいろんなチャンスを逃してきました。これから追い込みをかけていかないといけないといけません。もうすぐ就職活動や進学活動も始まります。そこで自分の志望する大学、企業に入社できるようにしっかり準備し挑める雰囲気作りをしていきたいと思います。次は最高学年です。ふさわしい態度や自覚を持って後悔のないように過ごしていきたいと思います。

電気情報工学科４年　『４Ｅとコロナと』

中村　一貴

「この一年を振り返って」というありきたりなタイトルにしたかったが、今年度はそうはさせてくれないようだ。昨年からTVをつければ、うざったいほど新型コロナウイルスの話題でもちきりだった。４月から普通に始まると思った前期は学生全員が自宅での遠隔授業となり、クラスとしての繋がりをあまり感じることがなかった。後期はなんとか対面授業が再開され、やっとクラスメートと同じ時間を過ごすことができた。その期間は約半年であり、この間のことを振り返ろうと思う。

この半年間を表すとしたら、「コロナ・テスト・実験レポート」になるだろう。もはや今年度の振り返りのテンプレートとなっているようなものだ。コロナによって、今まで感じていた“いつも通り”は過去のものになってしまった。学校に行く時は検温。学校に着いたら、まず消毒。実験をした後は消毒、移動教室の後も消毒。換気の繰り返しだった。学生も先生もみんなマスク姿で寮での生活も不自由だった。

テストでは、通常であればマスクを試験官に見せてカンニングしていないことを確認してもらっていたが、後期中間試験からはそんな確認は無くなった。このような生活がニューノーマルとでも言おうかと思った。

しかし、レポートの手書きは変わらず、ここだけはニューノーマルにならなくて、昔のままだった。学生もだが、先生もこの時期負担が大きいのではなかろうかとつくづく思った。コピペチェックツールなるものがあるので、それを導入すればWordなどでのレポートの作成も許可してよかろうと思った次第である。

来年度、私たちは最終学年になる。それぞれの進路に向かって行動する時である。これまでいろんなことを勉強し経験した私たちなら大丈夫だと確信している。コロナの感染次第では次の一年間もどうなるか分からないが悔いの残らないようにクラス一丸となって頑張りたい。

最後に拙い文章をここまで読んでくださりありがとうございます。

物質工学科４年　『４年生を振り返って』

石原　直弥

私たち４年物質工学科は男子23人女子16人の計39人のクラスで担任の金澤先生のもと日々切磋琢磨しながら充実した学校生活を送っています。１人１人の個性が強く、友達と衝突することもありますが、体育祭やクラスマッチなど団結する場面では一致団結し全員で取り組むクラスです。

この１年は新型コロナウィルスの影響で今までとは全く違う１年となりました。４月から９月末までは遠隔授業が行われ、様々な学校行事が中止となりました。また外出自粛により友達と会える機会も減りました。

しかし、新型コロナウィルスによる生活様式の変化は悪いことだけではないと私は感じています。遠隔授業に切り替わってから毎日のように課題が出され日常的に勉強する事が習慣になりました。また学校に行けないことで友達の大切さを改めて実感し、よりクラスの団結力が高まったと思います。４年生の１つの山場とも言えるインターンシップは中止またはオンライン開催になる企業も多くありました。このオンライン開催のインターンシップに対応するためにパソコンやインターネット環境を整えました。今まであまり考えていなかったネット環境を整えることで課題やレポートの効率を上げることが出来ました。

このように、今まで当たり前だったことが出来なくなったことで勉強の習慣化や友達の大切さを実感することができ個人としてもクラスとしても成長できたと思います。

高専生活も早いもので残り１年となりました。クラスの中でも進路の話や卒研の話などが聞こえてきます。この１年は初めてのことばかりで自由にできない我慢の年となりました。いつもの年に比べて物足りない１年でしたがその分新しい発見や得られたものもたくさんありました。今後も新型コロナウィルスの影響がどうなるかは現時点では分かりませんが、残された限りある時間を後悔のないように過ごし全員で笑って卒業できるクラスにしていきたいです。

建築学科４年　『夢いっぱいの愛されクラス!! ～私たちが４Ａ!～』

緒方　啓太

今回はクラス最高責任者の委員長である私「緒方啓太」が自慢のクラスである４年建築学科を紹介していきたいと思います。４年建築学科、通称「４Ａ」は個性豊かで、独自性のあるちょっと変わった人達の集まりです。あれは確か４年前、私がこの学校に入学し、「優秀な建築士になるぞ」という期待の気持ちを胸に、いざ、このクラスに足を踏み入れた瞬間、私は思いました。

「ん？なんだ。このクラスは何かが違うぞ」と。皆の、ギラギラし輝かしい活気の溢れた目を私は未だに忘れません。そうです。私たち４Ａは入学当時の建築に対する熱い気持ちは忘れていません。そして、私たち４Ａはもうひとつ秀でているものがあります。それはクラス全員がとても仲が良いということです。これはありきたりと言えばありきたりで、他のクラスも書いていることでしょう。ですが、わたしたち４Ａのそれはそんな薄っぺらいものではありません。そこで紹介したいエピソードがあるのですが、だらだらと「仲が良い」エピソードを話しても、文面だと伝わらないし長くなりますので、今回は分かりやすく、明白にわかる私たち４Ａの功績を紹介します。

①クラスマッチ優勝（男女共に優勝）
②七夕祭りの展示物の設営・運営
③空地のリノベーションにむけた計画、資料作成、管理者への原稿発表

まだまだありますが、今回はこの３つです。

これを聞くと、活気あふれた勢いのあるクラスだと思ってしまいますよね。私もそう思います。

このように４Ａは、元気いっぱいの、皆が憧れるキラキラしたクラスです。 そんな４Ａにはどんな人たちがいるのか、最後に写真を見せてあげましょう。 どうぞ！

機械工学科３年　『盛り上がりの良さ全クラス中一番です！』

山口　拓巳

私たち３年機械工学科は、男子37名、女子３名の計40名の賑やかでノリがよい元気なクラスです。男子が多いため、運動部のクラブに所属している学生も多いです。空いた時間は寒かろうが暑かろうがボールを片手に運動場へ向かって、とにかく体を動かそうとする、そんなクラスです。

本校の大きなイベントである文化祭・体育祭・クラスマッチでは、その活力を活かして学校行事に全力で取り組み、結果を出してきました。一年生の時の文化祭では、クラスの劇として「吉本新喜劇」をして体育館中を笑いの渦に巻き込みました。二年生の時の体育祭では、クラス対抗リレーで全クラス中２位に入賞しました。先日行われたクラスマッチでは、サッカーの部において見事優勝を果たしました。勝つためにみんなで試行錯誤する毎日はとても楽しく、様々な思い出ができました。そして結果が出せた時には、クラス全員で喜び合いました。

こんな楽しいクラスですが、全員がつい目をそらしてしまうほど大きな欠点が一つだけあります。極端に悪い成績です。テストでの学科ごとの平均点では、他のクラスより悪いことが多いです。体を動かすことが好きな分、授業中は寝てしまったり集中できていなかったりすることが多いのだと思います。そのため、授業や試験勉強に対する意識を上げていこうとクラスで取り組んでいる最中です。

このクラスの良いところは団結力です。だからこれからは、クラス全体で協力し合って勉強面でも結果を残し、文武両道のクラスを目指していきたいです。

電気情報工学科３年　『これまでを振り返って』

今川　拓真

私たち３年電気情報工学科は、男子36名、女子６名、計42名の個性豊かなクラスです。「みんなで一致団結！」というようなクラスではありませんがそれぞれ助け合いながら過ごしています。また、比較的トラブルや喧嘩が少なく、穏やかなクラスだと感じています。

今年は新型コロナウイルスの影響で前期は遠隔授業となり、高専祭が中止となってしまったためクラス全体で何かを成すということがありませんでした。ですが、電気情報工学実験では班員で協力しながら実験に取り組めたと思います。全員が同じ目標をもったとき、このクラスの学生は協力できるのだと感じました。体育祭やクラスマッチでは「団結して勝つぞ！」というよりは「楽しくやろう！」という感じで楽しく、でも協力して取り組むことができました。

３年生になってから専門科目の数が増え、また難易度が高くなったので理解しづらいことが増えると思います。そのときは学生同士で協力し、理解を深めるということが必要になります。このクラスでは分からないところを教え合ったり話し合いのようなことをしたりしている光景をよく見かけます。これがこのクラスの良いところの一つだと思います。

４年生からは本格的に卒業後の進路について考えなくてはなりません。クラス内でも就職するか大学に編入するか、はたまた専攻科に入るかという話をよくします。将来について考えるということは学生において大切なことだと思います。インターンシップや企業説明会などに積極的に参加して進路を決めるときの参考にしたいです。

これからも様々な壁にぶつかると思いますがその度に協力して乗り越え、充実した学生生活を送っていきたいです。

物質工学科３年　『３年生時代を思い返して　』

萩原　陸斗

私たち３年物質工学科は、男子19名、女子23名、計42名のとても仲の良いクラスです。今年は例年と違ってコロナというとても厄介なウイルスが日本で蔓延してしまい、通常通りの授業ができませんでした。特に、前期に関しては一回もクラス全員が集まることがなく遠隔授業になってしまいました。なので、３年生は２年生の春休みから10月まで約半年近くあっていないことになります。でも、逆にみんなに会えない時間が多かったので、後期が始まってから、今まで以上にクラス全体でとても仲が良くなりました。体育祭やクラスマッチも、去年よりもコロナの関係で制限があったけれど、それでもクラス全員で一致団結して楽しむことができたと思います。

勉強面では、コロナの影響で、前期は全て遠隔となりテストがなかったのでクラス全体の成績はなんとも言えないですが、後期のテストでは、３学年の中でも良い方だと感じています。授業内容では、対面と遠隔が混ざっているので、なかなか慣れない部分があると思われますが、これから先どれだけコロナの影響が続くのか分からないので、この授業形態に徐々に慣れていくしかないと思います。

今年は、実験など去年に比べて多いはずだったのですが、実験室では密になるので、実験ができない状況になり、その状況で実験のレポートを書かなければならないので少し難しさを感じます。そのため、みんなレポートのわからないところはお互いに教えあったりしています。

今年度は、みんなが楽しみにしていた工場見学や文化祭がなかったので、それがコロナの影響の中で一番辛かったです。でも、一日一日がとても良い思い出なので、今はとても楽しいです。

４学年では、インターンシップなどがあり、それぞれの進路も決まってくる時期でもあります。思っていた以上に、時間が過ぎるのは早く、このクラスでいられるのも約２年間となりました。残りの時間を大切に過ごしていきたいです。

建築学科３年　『世界で唯一のクラス　』

学級委員長　日髙 龍伸

私たちのクラスはおかしいです。普通の人が少ないです。とんでもないバカもいれば、めちゃくちゃ面白いやつもいるし、学校では誰もが知っている有名人もいます。このキーワードさえあれば、皆さんであれば大体誰かは分かりますよね。このように、ツッコミどころが、とても多いクラスです。学校の先生からは「君たちみたいなクラスには今まで会ったことがない(良い意味も悪い意味も含めて)。」と言われたことがあるくらいです。

しかし、こんなハチャメチャに見えても意外と団結力があります。クラスマッチでは、一致団結して、男女ともにまあまあいい成績を残していますし、こうした行事が終わった後は、通生も寮生もみんな一緒に打ち上げに行ったりもします。これだけでも結構まとまりがあって仲が良いということが分かりますよね。私は、今まで、行事やプライベートの遊びに、全員で親身に向き合うクラスを見たことも経験したこともありませんでした。一年生の頃の文化祭の練習では、言い合いなども何度かあって、自分が思っていることを隠さずぶつけ合っている姿も見られましたが、その甲斐あって、本番では観客大爆笑の最高の劇をすることができました。個でも群でも個性豊かなクラスです。

この世界で唯一の最高のクラスからは誰一人として欠けてはいけないと思っています。本当に大好きなクラスです。

卒業生・修了生の皆さんへ

機械電気工学専攻科ＯＢ　溝田　将司

皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。入学するときには長いように思えた高専生活もいざ卒業を迎えると、あっという間に過ぎ去ってしまったと感じておられる方も多いのではないでしょうか。

私は2005年機械電気工学専攻科入学、現在深山会中四国支部長を務めています溝田です。専攻科修了後、山口県周南市にある化学製造メーカーに就職し、化学プラントの設計・建設・保守を行うエンジニアとして働いております。私自身、社会人になってまだ13年目であり、ようやく中堅という言葉が板についてきた程度です。よって私の話が皆さんへの良いアドバイスとなるかが聊か不安ではありますが、少しでもお役に立てればと思い、私の社会人としての経験から得た思いについてお話しします。

話は、入社後１～２年目についてです。

私の場合、入社１年目の最初の半年は新入社員研修。残り半年以降は、配属先で簡単な業務（ほぼ雑務）を通じてエンジニアとして必要な知識を先輩から教えてもらう日々でした。仕事らしい仕事は与えられないのですから、正直な話、この時期は仕事に対しての充実感や達成感はなく、勤務中の時間経過も非常に長く感じられました。現に同期入社が数十人いますが、この１～２年目に辞めていった人が少なからず居ました。

もし皆さんがこの時期に、仕事がつまらないと感じるようになってしまったら、まずは職場の先輩が働いている姿を見てみて下さい。その姿は、数年後のあなたの姿です。日々忙しそうに仕事をしているのではないでしょうか。私も３年目にはプラントの定期修繕工事のメイン担当の仕事を与えられ、目の前にある仕事を片付けることで精一杯、あっという間に定時という日々になりました。さらに５年目を迎える頃には仕事にも慣れ、余裕も生まれ、自分の裁量で仕事を進めていくことが出来るようになってきます。この頃から仕事の充実感や達成感が各段と大きく感じられるようになってくるはずです。

あと社会人になり就職すると、もちろん給料が貰えます。お金に余裕ができ、自分で車を買って仲間とドライブしたり、お酒を飲みに同期と外へ出かけたりと、遊びの範囲が広がることでしょう（私の場合、すぐにローンで日産Ｚを買いました。そして社有寮で生活していましたので、毎週のように飲みに出かけていました）ここで気を付けて頂きたいことは、学生の時とは違い、社会人・会社組織の一員としての責任を負っているということです。私もそうでしたが、若い頃はなかなか自覚することが難しいです。しかし自覚の有無に関わらず責任は負うことになります。もし、あなたが会社の評判を落とすような振る舞いをしてしまえば、会社はあなたに対して厳しく評価するでしょう。小さな気の緩みや出来心が大きな後悔とならないよう、遊びにおいても少し注意しておくと良いと思います。

お節介焼きのような話になってしましましたが、以上が私からの話となります。

これから皆さんは次のステージに向かわれる訳ですので、期待と同時に不安も多いことでしょう。でも大丈夫です。過ぎてしまえば、不安だった気持ちは綺麗サッパリ忘れてしまいます。

それともうひとつ。私の勝手なイメージですが、高専の学生はユニークな方が多いと思っています。ＡＩやＩｏＴに代表されるように、社会の流れを受け、今後私たちの働き方というのも大きく変化していきます。この変化に乗り遅れない・加速させるためにも、皆さんのユニークな発想は必要となります。社会人になってもユニークさを大事にして下さい。卒業・修了おめでとうございます。

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます

建築学科ＯＢ　林　寛幸

私は、建築学科27期（1995年卒業）で深山会関西支部の支部長をさせていただいています林です。

今年度はコロナ禍による緊急事態宣言を受け、生活や学業において大きな環境変化があり、またその環境への対応で、教職員、ご父兄、学生の皆さまは大変なご苦労があったことと思います。とりわけ、学生の皆さんにとっては、「新しい生活様式」への対応はもとより、授業のオンライン化への対応や、高専祭の中止など青春の１ページを飾る行事中止により、非常に残念で悔しい思いをされたことと思います。

しかし、このコロナ禍において、皆さんはICTの活用や環境へ適合するための思考等により、様々な変化への適応能力を身に着けることができたと思います。

社会に目を向けても、これまでのやり方をいち早く見直し、勇気をもって変化を選択したものが、この国難ともいわれる中で業績をのばし、成長していっています。

今ある環境変化をとらえ、その変化にどう適応していくか、これからの時代は、より一層そのような能力が求められていくと思いますので、そのような意識を忘れずに持っていただきたいと思います。

社会人になる皆さんにとっては、親元、故郷を離れ就職される方もいるでしょう。住む場所が変わり、学業から仕事へやることが変化し、見ること、やることすべてが初めての経験で、正直なところ大きな不安を抱いていると思います。

私も25年前には同じような思いを抱いて関西地域に就職しました。当時を思い起こすと、その不安が良くわかります。

そこで、少しでも環境変化に対応できるために実践したらよいと思うことを自分への戒めとともにお伝えしたいと思います。

まず、元気な挨拶。

元気に「お早うございます！」と大きい声で挨拶してもらうと、とても気持ちが良く、周囲も元気になり、よい雰囲気が作られます。コミュニケーションの基本は挨拶だと思います。挨拶を通じて会話がうまれ、良い人間関係が構築されると思います。まずは、自分から積極的に挨拶を通じたコミュニケーションをとってみてください。挨拶には大きな力があると思います。

次に、勇気を持ってチャレンジ。

皆さんは、既に社会に飛び出す決断をし、大きなチャレンジの一歩を勇気をもって踏み出しています。

何かにチャレンジする時には不安がつきものです。不安のない人はいないと思うし、むしろ不安の中に成長があると思います。不安がある中でも勇気をもって一歩踏み出してみてください。どんなに小さい一歩でも構わないと思うので、仕事や遊び色々なことをチャレンジして経験を積んでください。

最後に、人脈を大切に。

皆さんは５年間慣れ親しんだ高専を離れ、それぞれの道を歩んでいくわけですが、そこでは様々な困難に直面することがあると思います。そんな時は学友を頼り、相談してください。５年間同じクラスで過ごした学友は、多感な時期に苦楽を共にした大切な仲間です。困難に直面したら遠慮せず、お互いに頼っていけばよいと思います。

私も関西に出てきたときは、週末に学友に合うのがとても楽しく、仕事やプライベートの悩みを相談したものです。また、今でも高専ラグビー部のメンバーと定期的に集まって、近況報告や学生時代の話をしながら飲んだりしています。まさにワンチームの気持ちで、お互いに心の支えになっていると感じます。

深山会関西支部は１期生から若い方まで広い世代が集い年１回の交流会をしています。この会に参加される方は、奉仕の精神が強く、親切で後輩思いの方が多くいらっしゃると思います。私もこの会でいろいろな気づきを得て、広い人脈を築くことができています。

今年は残念ながらコロナ禍の影響で中止でしたが、コロナ禍が落ち着いた際は、また元気に皆さんとお会いして、焼酎を酌み交わしたいと思います。

卒業生の皆さんも是非、深山会に参加いただき、豊かな人脈を作っていってください。絶対に損はないはずです。門戸フルオープンで大歓迎しますよ。

では、皆さんのこれからの人生が輝かしいものでありますよう心から願っています。

気張れ！！都城高専生！！

＜2019年度の深山会関西支部総会＞

面白い人間を産み出す都城高専

都城北支部　有馬　政彦

都城高専とのかかわりは、私の中学校時代までさかのぼります。三股中に在学していた私は、都城泉ヶ丘高校に進学しましたが、中学時代に仲の良い友人が多数都城高専に進学した事もあり、高校、大学、そして現在まで友人関係を続けさせていただいております。そしてその友人たちが実に面白い人間なのです。

高校時代、進学校にいた私が宿題に追われ、黙々と勉強するしかなかったのに対し、高専の友人たちは、バイトをしながら社会勉強をし、部活を楽しみ、そして学問も楽しんでおり、とてもうらやましいと感じていました。

そして、私が大学に進学してからも、中学時代の友人が高専のラグビー部に所属しており、そのチームメイトが私の大学に編入学してくるなどのつながりがあり、現在までその同級生たちの生き方に大いに刺激を受け、学ばせていただいております。

その高専で学んだ友人たちの面白さはどこから来るのか、当時からそんなことを考えていましたが、明確な答えを持ち合わせておりませんでした。

時は経ち、私もありがたいことに３人の子どもに恵まれ、長男が高校受験の選択をすることになりました。我が子どもたちは、私の趣味である野外生活（今風に言えばキャンプ）を幼少期から続けてきたことから、手先が器用で、ものづくりや自主性に長けていることが特徴です。

そんな時、中学校で開催された、高校説明会で来て下さった高専の先生の話が実に面白く、紛れもなく説明会に参加した高校の中でナンバー１でした。それは長男も同じことを感じてくれていて、高専受験が確定した瞬間でした。

高専の先生が高専のことに誇りを持ち、自信を持って面白い学校だと中学生に語りかける姿を拝見させて頂いた時、瞬時に私の面白い高専出身の友人たちを思い出していました。

「なるほどそうだったのか・・・実に面白い先生方が、面白い学生を育んでいるのだ」と、当たり前のことですが、多くの示唆を与えてくれます。私たち大人が襟を正し、子どもたちに人生は楽しいということを伝え切れているでしょうか。そんなことを深く学んだ貴重な機会でした。

高専受験を決めてからは、長男は必死に頑張りました。推薦がもらえるほどの実績がなかったため、それからは夜もほとんど睡眠をとらないくらい努力をし、なんとか合格させていただくことができました。そして現在は、偶然にも友人が入っていたラグビー部に御縁があり、多くの先輩にかわいがって頂きながら、多くのことを学ばせていただいております。

実は、次男もそんな経緯から、高専志望で受験をさせていただいたのですが、残念ながら御縁を頂くことができず、私の母校に通っております。さらには、長女が現在中学１年生なのですが、現在のところ高専を第１志望として考えており、合格に向けて努力を重ねているところです。

最後になりますが、都城に生まれ都城に住むものとして、面白い人間を産み出し続けている都城高専は、その独自性と特徴を生かして、さらに発展して欲しいと切に願っております。特に、現在も様々な地域連携事業を実施していただいているところでありますが、高専の先進性と技術力を最大限活用していただき、コロナ渦ではあっても、先生方および学生の皆さんとのさらなる地域連携を促進して頂き、地域住民に開かれた学校となることを御期待申し上げます。

出会いから現在

南那珂支部　　工藤　暁子

私が高専の存在を知ったのは息子が小学５年生の頃でした。

職場の上司の息子さんの母校らしく、都城高専への進学をすごく勧められました。

その時から私の息子への高専受験を促す為の洗脳が始まりました。当時息子にもなりたい職業がありその夢に向かって中学校生活を送ろうと考えていたようですが、その夢はとても高専に関係のない職業でしたので「電気の知識があると仕事をしながら故障も直せるから！」と無理やり高専に行く道を進めました。息子も中学２年生ぐらいからは高専一色になり、本人ながらに日々頑張っていました。中学校では先生方全員に助けられ応援され、念願かなった高専生活はとても充実していた反面、とてもつらい日々の始まりだったようでした。全校生徒10人の中学校から全校生徒850人程の学校に進学しただけでも本人にとっては大きな変化でした。さらに寮生活で初めての自立。初めてだらけで不安なスタートではありましたが１年生の時の担任の先生が入学式の当日におっしゃった言葉に救われて親子ともども今があると思います。さらに、親元を離れて暮らす子供の様子を要所要所で伝えて下さり、そのおかげでなれない国立高専の雰囲気にも安心して通わせることが出来ました。また、高千穂寮での生活も友達、先輩、後輩に恵まれとても充実していたようです。

学校生活では、以前オープンスクールで先輩がおっしゃっていた電気情報工学科の大変さは、入学してからのレポート地獄の日々で実感したようです。テスト期間になると欠かせないエナジードリンク。このドリンクとの出会いは衝撃的だったようです。毎回、課題提出やテスト期間の勉強の多さに負けそうになりながらも順調に階段をのぼり４年生も無事に終わりを迎えようとしています。

とうとう早いもので最後の年を迎えます。令和２年度はこの時代に生きる子供達にとってとても特殊な年だったと思います。この特殊な年を過ごした経験を無駄にする事のないような生き方をしてほしいと思います。

寮生なのでほとんど高千穂寮の出入り口しか利用しませんが、たまに通る正門近くのリニューアルされた「国立都城高専」の赤い看板を見ると国立の重みを感じそこに通っている息子をすごく誇らしく思います。

あと一年、大変な世の中ではありますが都城高専で出会った良い仲間、先輩、後輩、先生方との思い出をたくさん作ってほしいです。

特集Ⅲ　こちら後援会

ジャガイモがピッカピカに

南那珂支部　谷口　慎二

「都城高専に行きたい」と言ったのは中学３年生になったときでした。

我が家は柑橘農家ですが、７歳離れた兄も物質工学科を卒業し県外に就職しました。兄は「高専は大学生とは違い普通科目それに専門科目を５年間で習得するため、テレビで見る大学生みたいなキャンパスライフを満喫しようと思ったら、時間的な制約があるから普通高校から大学を目指した方が良いんじゃない」と経験談から行くには決意がいると教えていました。

しかし、本人の強い希望もあり、幼いころから子ども用の科学雑誌を見たりして、科学に興味を持っていましたので、自分の生きる道として嫌いなことをやっても身にならないとの考えから高専に進学する道を許しました。

高専では、遠方なので寮に入りなれない生活を送りながらも、なんとか友達も出来たようでしたが、親としては高専「あるある」留年の心配です。

高専という所は、進学する自由と留年する自由を持っていると、先生から言われたのを思い出しました。また、中学卒業仕立てのガリガリ頭からおしゃれな若者までが一校にいるのがびっくりでした。入学式の時に（故）森茂先生から「ジャガイモみたいに洗われて、卒業するときはピッカピカになりますよ」と言われ笑った事も、昨日のことのように思い出されます。

さて、新型コロナウィルスであります。

長男が海外に行きたいとのことで、３月で仕事を辞め帰ってきましたが、新型コロナの影響により海外に行くことも出来ず、仕方なく自宅から通学で資格を取りに行くことになりました。次男もリモート授業になり我が家は盆と正月がいっぺんに来たようになり、家内も米をどの位炊けばいいのかわからないとパニックになっていました。一刻も早く終息することを願います。

そして、高専に最も惹かれるのは就職数の多さです。学科でも年度でも違いますが、一人に対して10件以上の会社から募集があり、一流企業も名を連ねているところはさすが高専だと思います。

平成25年官邸で行われた総合科学技術会議において麻生太郎財務大臣が「高専とかああいったようなものはもっと高く評価されてしかるべきだ。大学の理Ⅰが偉いとか 理Ⅱとかより、高専を出た人のほうが会社としては余程信頼が出来る。雇った側の立場から言うと私はそう思う。是非その点も頭に入れておいて頂ければと思う。」と述べられています（第108回総合科学技術会議議事要旨一部抜粋）。

この言葉が示すように、現在の高専理念は卒業された先輩方の努力の上に成り立っているのだと強く感じ、これからもそうであってほしいと思います。

最後に、前段書いたように我が家は農家です。現在の一次産業は特に労働力不足が大きな課題です。課題解決には技術をサポートできるAIなどを活用した工業技術との連携が不可欠です。将来高専の子ども達の技術によって明るい未来が来ることを願います。

環境が人を育てる

南那珂支部　中田　千佳

娘が中学３年生になり、どの高校に進学するのか話をしていた時のことです。これまで特にどの高校に行きたいとも話していなかった娘が突然「都城高専に行きたい。」と言い出した時、本人には言いませんでしたが心の中では「いや、無理でしょう？？」と叫んでいました。娘は取り立てて成績が良いわけではなく、休みの日も部活三昧でしたし、私の中では「高専＝頭の良い子が行く学校」でしたので、合格は難しいだろうと正直思っていました。しかし、本人がやる気でしたし、合格に向けて頑張るのは良いことだと思い、進学塾にも通わせましたが、模試の結果は芳しくなく、中学浪人だけは避けたいと他の学校も進めましたが頑として聞き入れず試験当日を迎えました。本人曰く「やるだけやった」試験の合格発表の日、学校のホームページで受験番号を探しながら、何と言って慰めたものか・・と思っていたところ、娘の受験番号を見つけ、思わず「奇跡だ・・」と思いました。塾の先生が一番驚いでいたのが可笑しかったのですが。

合格したらしたで、「親元を離れて寮生活になるが大丈夫だろうか」「学校の授業についていけるだろうか」等心配の種は尽きません。案の定、入学して最初のテストでは後ろから数えた方が早かったと記憶しています。「守護神と四天王」と、成績の下位５人をそう例えるのだと笑いながら教えてくれたときは、頼むからその仲間入りをしないで頂戴～と心の中で祈っていました。

しかし、娘は高専に行って変わりました。中学の頃はテスト期間中でも身を入れて勉強をしていませんでしたが、高専ではテストに向けて夜遅くまで寮の先輩や友達と一緒に勉強したり、課題に取り組んだり。寮や学校で「周りが勉強するのが当たり前の環境」の中、頑張っている娘を見て、心配だったけど高専に進学して本当に良かったと感じています。勉強だけでなく、私生活でも積極性が出てきました。長期の休みにアルバイトをしたり、体育祭で応援団をするからと休み返上で練習をしたりと、これまで部活以外にはあまり熱心でなかったのに色々なことに興味を示し、やってみるようになったのです。寮での生活も（色々大変な所はあるようですが）楽しんでいるようです。昨年は本当なら就職に向けてのインターンシップ等あるはずだったのに、コロナウイルス感染症のためほとんどがリモート授業でした。環境に左右される傾向のある娘ですので、やる気が落ち込んでしまうのではないかと心配していました。ありがたいことに、コロナ禍が一時期落ち着いていた時、１か所だけ行くことができましたが、実際の職場を体験することで、意欲も若干持ち直してきたようです。今年は高専最後の年です。これまでの５年間の集大成ですので、悔いなく精いっぱい学生生活を送って欲しいのですが、年末年始を経て感染者がこれまで以上に増え授業再開も遅れている今、今年も学校に行けずリモート授業が中心になるのではないかと懸念しています。最後の１年を精いっぱい楽しんでください。また、先生方をはじめ娘にかかわってくださった方々へ、心からお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

旧学生会長挨拶

学生会長に おれはなる!!!!

物質工学科５年

喜多　竜作

私がそう思ったのは３年生の高専祭が終わった時です。決してフーシャ村をでて近海の主を倒した時ではありません。学生800人全員の学生生活を充実したものにするため私は学生会選挙に立候補しました。学生会長の任期を終え、私は高専を卒業しますが私はみなさんの期待に応えることができたでしょうか？今年度の学校の大半は遠隔授業で何もイベントを開催することができず申し訳なく思います。ですが体育競技会、クラスマッチを開催できたことは本当に嬉しく思います。

また学生会、高専祭実行委員を中心とした大抽選会の開催は学生会長として一番大きな学生の皆さんへのプレゼントかなと思います。大抽選会を通してできた仲間は大切な存在です。白ひげが財宝に興味を持たず家族を欲しがった理由が今はわかります。

また学生会長とは関係ありませんが、高専での一番の思い出は体育競技会の応援団です。あの１ヶ月間を私は忘れることはないと思います。物質工学科応援団の皆さん、私は光月おでんのような立派な男でしたか？みなさんの一献の酒のお伽になれば私はそれでいいです。

私はもう高専を卒業しますが高専の中で私の存在がなくなるわけではありません。人が死ぬのが心臓を銃で撃ち抜かれた時でも不治の病に侵された時でも猛毒のキノコのスープを飲んだ時でもなく人に忘れられた時であるように学生の皆さんが私を忘れることがなければ私は高専にいる。そう思うのです。

最後にみなさんに感謝の気持ちを伝えたい。５年間本当に楽しい学生生活を送ることができたのはみなさんのおかげです。高専を卒業し孤独を感じたときに私はみなさんを思い出し「仲間がいる゛よ!!!!」そう思うのでしょう。学生のみなさん、先生、寮食のおばちゃん、学生課のみなさん、本当にありがとうございました。あえて私はこちらの言葉でお別れをしたい。

「カゼひくなよ」

新学生会長挨拶

建築学科４年　田原　匠

みなさんこんにちは。この度、みなさんからの承認をいただき学生会長となりました、４年建築学科の田原匠（たばるしょう）です。先ず、今回任期を終えられた前会長喜多竜作さんをはじめとする５年生の皆さんに、本当にお疲れ様でした。とともにありがとうございました。という言葉をこの場をお借りして送らせてください。

学生会長になるにあたり、自分の責務をどのようにして全うしていくかがカギだと考え、前会長が素晴らしく頭が切れる方だっただけにとてもプレッシャーに感じます。

昨年は、卒業式の縮小化にはじまり、前期遠隔授業、高専祭の中止など、だれも予想などできないようなことばかり起き、誰もが一度はこの学校生活に嫌気がさしたことと思います。しかし、前代未聞の状況の中、少しでも学内を盛り上げようと考え、いち早く動き始めるのが学生会でした。そんな状況の中、長い歴史の中で一度として落とされることのなかったバトンが私にわたってきました。

私事ではありますが、文化祭や体育祭、クラスマッチなどの学校行事にはさまざまな立場で携わってきました。そこで得た経験、先輩からの知識、後輩からの意見を思い出し、この一年間全力を尽くします。また、学生会には先に述べたような学校行事で共に仕事をこなした仲間も多くいます。信頼関係のある中で仕事ができることをとても心強く思うのと同時に、お互いの得意不得意を補い合えるという点も活かしながら学内を盛り上げていけるよう取り組んでまいります。

最後になりましたが、指導部をはじめとする先生方、保護者の皆様、そして学生のみなさんのご指導、ご協力が欠かせません。繰り返すようではありますが、先輩方が積み上げてきた土台を崩すことなく、さらにより良いものとなるよう磨きをかけ、歴代の学生会に恥じることのないよう努めてまいりますのでご協力お願い申し上げます。

総務			交通安全		
会長	4A	田原　匠	局長	4M	小田　優翔
副会長	4M	岩佐　塔哉	副局長	3C	井　音羽
〃	3M	森　后太郎	局員	3M	枝元　航
議団長	4M	岡本　拓翔	〃	2C	松崎　瑠奈
〃	2C	鎌田　梨那	環境		
〃	4A	緒方　啓太	局長	4A	瀬戸口　士朗
〃	3C	吉田　怜矢	副局長	4C	鈴木　翔太
〃	3A	中元　景介	局員	3C	村上　愛侑
広報			〃	2C	新保　優花
局長	4A	結城　佑麻	風紀		
副局長	3A	下村　すず	局長	4C	下村　紗世
局員	4E	川野　祐輝	副局長	4A	菊池　健士朗
〃	3A	今村　空美	局員	3C	中原　彩希
〃	3A	森木　大悟	〃	2C	安岡　麻結
〃	2A	日野　姫凪	監査		
体育			委員長	4M	鬼束　虎之介
局長	4A	田中　政伍	副委員長	4A	平川　真優
副局長	4A	中野　喬一郎	委員	3C	宇土　大和
局員	3E	代田　笙	〃	2E	児島　理菜
〃	3A	日高　龍伸	文化		
〃	3A	吉永　大騎	局長	4E	深迫　空
渉外			副局長	4A	税所　篤史
局長	4C	長友　彩華	局員	3A	下園　凛
副局長	3M	歳川　蓮	〃	2E	有馬　佐恵
局員	2A	永井　敦子			
〃	1C	山下　源			

学内トピックス

オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは、COVID-19感染症対策措置として、例年実施してきたオープンキャンパスを取りやめ、代わりに初の試みとして本校ホームページ上に特設サイトを設けた「バーチャルオープンキャンパス」として実施しました。

特設サイトには校内の様子や実験の風景をアクションカメラやドローンで撮影した動画や学生目線による学科紹介などを掲載し、８月末の公開から3,396回のアクセスがありました。また、動画の再生回数は1,678回にものぼりました。

サイトを訪問された方々からは「実際に行って歩いているような気分で見学できた。」、「英語で紹介し、字幕が出るのもinternationalで良かったです。」「実験などをしている映像も出てきて、ワクワクしました。」「都城高専について、知りたい情報が詳しく載っていたので良かったです。」など多くの感想が寄せられ、大変好評でした。

体育競技会

10月29日（木）に体育競技会が開催されました。今年度は３密を避け、感染症対策を施しながらの実施となりましたが、「ソーシャルディスタンスボール運び」など、このような状況下でも実施可能な競技を体育競技会実行委員が考案し、無事に開催することができました。

また、練習時間があまり確保できない中、各学科が放課後等、限られた時間を最大限活用し、練習に取り組んできた応援演舞も披露され、観覧をご遠慮いただいた来賓・保護者の方々の分まで、学生・教職員から惜しみない拍手が送られました。なお、今年度はご来場の叶わなかった保護者の方々や競技会に参加できなかった学生に向けて、Youtube Liveを使用した、応援演舞のライブ配信を行いました。応援演舞賞は物質工学科でした。

学内トピックス

チューリップを植えましょう

12月10日（木）に、プランター及び本校の福利厚生施設「楽信館」前の花壇に、チューリップの球根260個を植えました。本取組は、12月７日（月）から12月11日（金）の本校いじめ防止週間に合わせ、学生会、ボランティア同好会、園芸同好会の協力の下、実施したものです。チューリップは、冬の厳しい寒さに晒されないと、春に花が咲きません。冷たい冬を乗り越えて立派な花を咲かせる様子に、大変な一年間を経験しながらも、前を向く学生の姿が重なります。３月には卒業生・修了生の門出を、４月には在学生・新入生の新しい一年を、色とりどりのチューリップが祝福することでしょう。

ロボットコンテスト2020全国大会

ロボット製作局　機械工学科２年　上村　日陽里

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催が危ぶまれていた高専ロボコン2020は、ロボコン史上初めてオンラインで開催されました。例年のような対戦形式ではなく、「だれかをハッピーにするロボットを作って、キラリ輝くパフォーマンスを自慢しちゃおう（略してはぴロボ自慢）」という競技内容です。

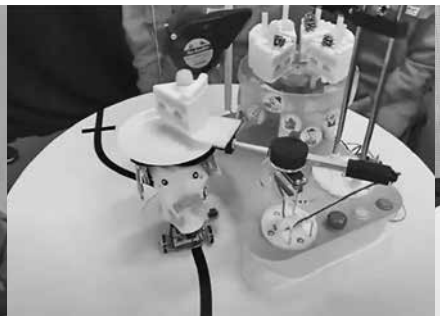
私たちは、コロナ禍の中で誕生日どころではなかった人たちに、幸せを届けたいという思いから、飛沫感染の防止対策を施した、ホールケーキを自動で切り分けてくれるロボットを製作しました。ロボット名は「とどけ！ケーキゴーランド！」です。

地区大会まで28日間という短い期間での製作でしたが、３Ｄプリンターとレーザーカットを多用することにより、このロボットを実現することができました。地区大会では、予選を突破して決勝に進むことはできませんでしたが、協賛企業の方から特別賞をいただき、最終審査で、九州沖縄地区代表として全国大会出場チームに選ばれました。

今回、２年生３名と３年生１名で構成された低学年チームだったので、昨年卒業された先輩方が作ってきた「５年連続全国大会出場」という記録を、私たちで止めてしまうのではないかと、とても不安でした。全国大会もオンライン開催のため、実際にロボコンの聖地である国技館に行くことは叶いませんでしたが、６年連続で全国大会に出場し、先輩たちの想いを繋げられたことは、大きな喜びとなりました。

全国大会では、ロボットの精度を上げて、完成度の高いパフォーマンスを披露することができました。最高の栄誉となるロボコン大賞には、残念ながら及びませんでしたが、来年度の大会に向けた課題がしっかりと見えたような気がしています。

私たちロボット製作局は、より良い技術者になるために、高専ロボコンの活動を通じて、ロボット製作に関する知識を高めていきたいと思っています。今回、大変な状況にも関わらず、高専ロボコンの大会開催や私たちの活動を後押ししてくれた皆様に、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました！



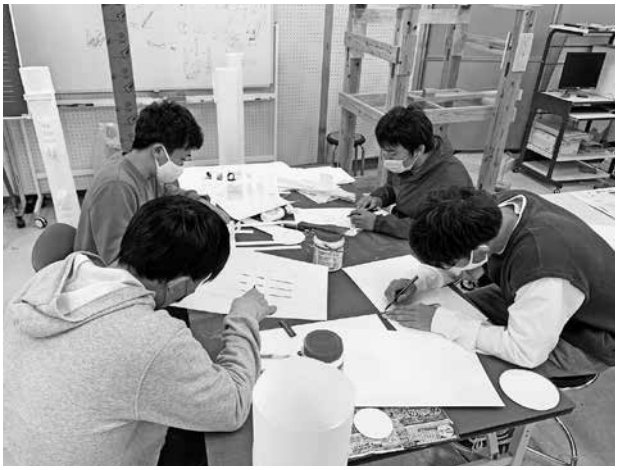
第１７回　全国高等専門学校デザインコンペティション
デザコン　２０２０　ｉｎ　名取

建築学科５年　米澤　翔大

私たちは指定されたケント紙とボンドで橋を製作する構造デザイン部門に参加しました。新型コロナウイルスの関係もあり、今年は遠隔での授業と並行して自宅での考案、作成から始まりました。去年の作品を参考にしたり、チームメンバーとSNS等を用いて意見を共有したりと限られた時間の中、試行錯誤を繰り返して今回の『筒号』という作品を作り上げることができました。今回のデザインコンペでは入賞等は叶いませんでしたが、自分たちでゼロから考え想像した物を実際に形作ることができたことは貴重な経験だったので、参加できて良かったと思います。

参加メンバー：　建築学科５年

米澤 翔大、兒玉 大輝、柴田 良謙、米吉 勇樹



建築学科５年　甲斐　萌真

私が応募した空間デザイン部門は『こどもパブリック』をテーマに、“こども”が中心となるまちづくりのコンペでした。私は、『新しい生活様式』に合わせて、大人数が集まる交流施設ではなく、屋外にいくつも分散させて少人数で利用できるもの（“Cube”と名付けました）を、まちのあちこちに計画し、こどもたちが下校時に安全に寄り道して帰れるようなまちを提案しました。

建築学専攻１年
片平　真梨恵、立元　廉、外園　初音

高専デザコン2020（空間デザイン部門）に参加して

作品の制作を行う中で、コロナ禍ということもあり、提案のコンセプトを決められなかったり、話し合いが行き詰まったりするなど、なかなか前に進むことができず、作品として形にすることができるか不安になることもありました。最終的にはなんとか作品として完成させることができて本当に良かったです。ご指導していただいた杉本先生には本当に感謝しております。ありがとうございました。

ICSTE2020に参加して

機械工学科５年　一宮　稜平、河野　凌大、山元　兵馬

私たちは、９月16日から18日にタイ王国のチョンブリー県パタヤ市にて行われた国際会議「International Conference on Science, Technology and Education 2020（ICSTE2020、主催：キングモンクット工科大学トンブリー校）」にオンライン形式で参加し、学術研究発表を行いました。現地を訪れて発表をすることが叶わずに残念でしたが、オンライン形式での発表の機会を設けて頂き、うれしく思いました。このような形での参加になったからこそ、今後、海外での学会発表を行ってみたいと強く思うようになりました。

本番までには様々な苦労がありましたが、その分、新たに学ぶこともあり、発表の準備段階から良い経験が出来ました。まず、発表の原稿作成です。日本語で書き出した発表文をただそのまま訳すだけでなく、どのような単語・文法が適切なのかを調査しながら原稿を作成しました。この過程で、新たに工学系の英文の書き方や伝え方、研究分野での専門用語の英語表記を学ぶことが出来ました。これまでの授業で、科学・工学系の英文の扱い方やその書き方を学んできましたが、いざ一人で書こうとするとそれを思い出すことが出来ませんでした。逆に今まで習った英文法を用いても、今の研究分野ではそれが通用しないことが判明することもありました。英語の原稿作成を通して、これまで学んだことが足りなかったと認識させられました。

次にスライドの作成です。自分自身で作成したスライドを先生へ提出後に確認・解説していただくと、シンプルなものとなっていました。見やすいスライドを作成していたつもりでも、それがどれほど分かりづらいスライドになっていたかを思い知らされました。スライドは発表を補うものと考えながら作成すると、提出の回数を増すごとに見やすいスライドになってきていると感じました。ところが本番、海外の学生の発表スライドを見ると、スライド一面に英文が詰まっており、スライドを見ることで海外と日本との発表に対する考え方の違いを感じました。

発表当日でも改善点が明らかになりました。一人で練習している時はうまく発音出来ていても、いざ聴衆の前で発表すると緊張してイントネーションがおかしくなり、早口にもなってしまいました。逆に、練習の段階で間違ったアクセントを頭に入れていたために本番で異なる発音で発表をしてしまうこともありました。また、発表中に図表の解説がおろそかになり、聴衆とアイコンタクトがとれないことも多かったです。次回は本番前に数回は発表の練習を先生方に見て頂き、英語の発音を含め発表全体をより良いものに仕上げていきたいと思いました。さらに、他大学の先生の発表も聴講出来たため、次の学会発表で活かしていきます。

質疑応答で最も自身の英語力が試されていると感じました。リスニングテストと同様に、英語での質問を聞こえてきた単語から瞬時に理解していくことに失敗したら、質問には答えられないと実感しました。また、実際の英語での質疑応答とリスニングテストで異なることは、英語での質問に答える際に発表者に責任が伴っていることだと、質問に答えようと苦戦している最中に感じました。特に、返答を瞬時に分かりやすく英語で表現することがとても難しかったです。

発表当日までしっかりと練習を重ねてきたつもりでしたが、本番は思い通りの発表が出来ず、自分自身の英語力と発表力の低さを痛感し、悔しかったです。しかし、学会発表を経験したことは自分自身にとって非常に大きな糧となりました。次回の学会発表では悔いの残らない最高の発表をするために、今後、今回経験した悔しさをばねに、英語力と発表力両方磨いていけるよう精進していきます。

新型コロナウイルスによって海外との往来が厳しい状況であるため、中には国際交流はこの時期には出来ないと思われている方もいるかも知れませんが、何か別の方法を探すことで、そのチャンスは見つかり、さらに実行することも可能です。皆さんも何か自分なりの方法を見つけ出して、海外での学会発表や国際交流に興味を持って欲しいと思います。

美しい高千穂との出会い

物質工学科４年　TSETSEGNUUR NOMIN　ERDENE

都城高専では、留学生が日本の文化と接触するための留学生研修旅行というプログラムが毎年行われている。それで私たちは、今年高千穂というきれいな町を旅することになった。日本に留学し、宮崎県の都城高専に来ることが決まってから、モンゴルにいる母は宮崎についてインターネットでいろいろ調べ、高千穂という場所がすごくきれいで、特に高千穂峡にぜひ行くことを薦めていた。私は元から旅行が好きで行きたいところや見たいものがたくさんあったが、新型コロナウイルスなどの関係でなかなか行く機会がなかった。そこでやっと、宮崎に来る前からずっと行きたいと思っていた高千穂に行くことが決まって、とてもうれしかった。

高千穂は宮崎県に位置しているが一番北方面で、高専から約170キロ離れているので車でなければ行くのが難しい。高千穂には同級生の友達２人、松川先生、私の４人で行った。

今回私たちは高千穂峡、高千穂神社、天岩戸神社、あまてらす鉄道などを観光した。高千穂峡でボートに乗ったら、もう12月で少し寒かったが、きれいな景色や自然によって寒さをあまり感じなかった。天岩戸神社に午前中に行ったら日光がちょうどいい角度だった。日本人の友達に、太陽の神様が何年間も岩の中で隠れたという昔話を教えてもらい、神社とは何か、その背景などが少しわかるようになった。あまてらす鉄道は、高千穂駅と高千穂鉄橋の間約5.1kmを列車で観光する鉄道であった。途中で一回止まり、高いところから高千穂の自然の美しさを幅広い範囲でシャボン玉とともに楽しんだ。

留学は勉強することもとても大事だが、留学先の国の文化や言語を習うことでその国について学ぶことも大事である。この研修旅行を通して私は日本人ともっと仲が良くなり、日本の自然と触れ合い、その背景の文化を習うことができ、とてもいい経験になった。またこういう機会があればぜひ行きたいと思う。

オンラインさくらサイエンスプランに参加して

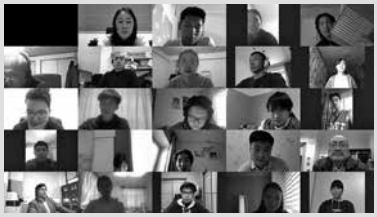
機械工学科５年　武内　詩乃

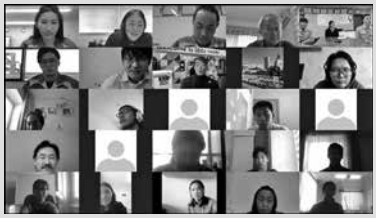
今回のさくらサイエンスプランは、モンゴルにある３高専の学生との実践的技術者キャリア形成をテーマとした交流でした。新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となりましたが、一人ひとりの発言を丁寧にしっかり聞くことができました。日本とモンゴルの様々な違いを学ぶ、とても有意義な時間でした。

２日目は、日本の雇用形態である終身雇用と年功序列について話し合い、就業状況の違いについて学びました。モンゴルでは転職する人が多く、終身雇用を選ぶ人がほとんどいません。モンゴル人は飽きやすいと言っていましたが、学んだことを活かせないとも言っていたので、本当にやりたい仕事に就きにくい環境なのだろうと思いました。

３日目、テーマはモノづくりについてでしたが、私のグループでは出席者が高専に入学した理由について話しました。技術者になりたい、モノづくりが好きだから、学校見学で興味を惹かれた、と言った理由は日本でも聞いたことがありましたが、海外ならではと感じたのは、日本式の教育に惹かれた、日本での就職に有利であるからといった理由です。参加した本校の留学生からは、日本の方が設備が良く、実験の機会が多いから留学を決めたと聞きました。モンゴルの人たちの行動力は、私たち日本人にはなかなか無いものだと思います。

私は、ロボコン支援でモンゴルに２回渡航した経験があります。今回のさくらサイエンスプランに参加した学生の中では、最も多くモンゴルという国に触れてきたと思います。しかし、高専を選んだ理由や就職に対する考えはあまり聞く機会がなかったため、今回も新しいことを多く知ることができて、とても刺激になりました。私は今年度で卒業しますが、今後も海外の方々とは交流を深めていきたいと思います。





図書館トピックス

図書館リニューアルオープン

本校図書館は８年もの準備期間と１年間の改修工事を経て、2020年４月にリニューアルオープンしました。４月から９月までは新型コロナウイルス感染拡大予防のため、休館または利用施設・時間を限定しての開館となっておりましたが、ようやく10月より本校学生・教職員の皆さんは全面的に利用いただけるようになりました。新しくなった図書館についてご紹介します。

２　階

開架書庫・閲覧室

南側全面に窓を配し、明るい開架・閲覧室となりました。サイレントエリアである開架・閲覧室には窓側に閲覧席が設置され、閲覧室はコンパクトながら静寂を保ち、学生の皆さんの学修や読書をより一層深めてくれます。蔵書は高専図書館ならではのラインナップで、専門図書と一般図書が程よいバランスで配架されています。

ＩＣＴ自習室

どなたでも利用できるパソコンが設置され、北側と東側全面が窓になっているためか、広々と感じる空間となっています。特活などの授業でも利用されています。

そのほか、モンゴル技術大学より寄贈された緞通が印象的なブラウジングスペース。少人数の打ち合わせに適したミーティングルームは３室あります。

第２閲覧室（グループ学習室）

北側全面の窓からは木々を眺めることができ、学修の合間にほっと目を休めることができます。この施設はICT自習室とともにアクティブエリアと位置づけ、相互学習やグループ学習の場として利用されています。DVD鑑賞ブースも設置されています。

１　階

ICTみやまルーム

AV機器を備えた大人数の会議や講義が可能な施設です。壁には吸音ボードが施されているので、ある程度の音響も外に漏れにくくなっています。

そのほか、グリーンの床が鮮やかなコラーニングスペース、英語の授業が行われるCALL教室があります。吹き抜けの一部分にエレベーターが設置され、バリアフリー強化も目指しました。

メディアホールギャラリー

正面玄関を入ってすぐのところにあります。利用者の休息の場として、パネル展示などの発表の場として、その他利用する方のアイデア次第で自由に活用できる場にしたいと考えております。

主な就職・進学内定先一覧（順不同）

本　　科

機械工学科	株式会社アイ・エス・ビー	セイコーエプソン株式会社	九州大学
	アマゾンジャパン合同会社	東芝インフラシステムズ株式会社	熊本大学
	アルスコーポレーション株式会社	トーテックアメニティ株式会社	豊橋技術科学大学
	ENEOS株式会社	株式会社トノックス	宮崎大学
	花王株式会社	株式会社ニコン	都城高専専攻科
	株式会社カンセツ	パナソニック株式会社アプライアンス社	
	霧島フォーラム	フードテクノエンジニアリング株式会社	
	グローブライド株式会社	丸善石油化学株式会社	
	コニカミノルタジャパン株式会社	三浦工業株式会社	
	株式会社小松製作所	森永乳業株式会社	
	サントリーホールディングス株式会社	独立行政法人国立印刷局	求人件数　計　610　件
	株式会社シマノ	鹿児島大学	
電気情報工学科	旭化成株式会社	東京エレクトロン株式会社	
	AJS株式会社	東京ガス株式会社	
	株式会社NTTフィールドテクノ	西日本旅客鉄道株式会社	
	株式会社小田原エンジニアリング	日信電子サービス株式会社	
	株式会社カネカ	日本アルゴリズム株式会社	
	株式会社コモンコム	株式会社FIXER	
	CTCシステムマネジメント株式会社	宮崎日機装株式会社	
	セントラルエンジニアリング株式会社	株式会社安川電機	
	ダイダン株式会社	豊橋技術科学大学	
	株式会社DSB情報システム	都城高専専攻科	
	株式会社デンソー宮崎		求人件数　計　678　件
	東海旅客鉄道株式会社		
物質工学科	旭化成株式会社	東京電力ホールディングス株式会社	
	ENEOS株式会社	東洋インキSCホールディングス株式会社	
	王子製紙株式会社 日南工場	日東電工株式会社 亀山事業所	
	花王株式会社	日東電工株式会社 豊橋事業所	
	花王コスメプロダクツ小田原株式会社	ピー･アンド･ジー株式会社 滋賀工場	
	京セラ株式会社 鹿児島国分工場	株式会社Filament	
	住友精化株式会社	一般社団法人日本血液製剤機構	
	星光PMC株式会社	東京農工大学	
	第一工業製薬株式会社	九州大学	
	第一三共ケミカルファーマ株式会社	都城高専専攻科	
	大日精化工業株式会社		求人件数　計　222　件
	田中貴金属工業株式会社		
建築学科	オリックス・ファシリティーズ株式会社	東急建設株式会社	吉原建設株式会社
	九州電力株式会社	東急電鉄株式会社	宮崎市役所
	株式会社ザイマックス	東京不動産管理株式会社	熊本大学
	清水建設株式会社	東レ建設株式会社	都城高専専攻科
	株式会社下森建装	日本オーチス・エレベータ株式会社	都城高専研究生
	株式会社船場	日本国土開発株式会社	日建学院
	株式会社第一ヒューテック	松尾建設株式会社	
	大和ハウス工業株式会社	三井物産フォーサイト株式会社	
	大和リース株式会社	三井不動産レジデンシャルサービス株式会社	
	株式会社ＴＡＫイーヴァック	三菱地所コミュニティ株式会社	
	株式会社TAK-QS	村本建設株式会社	求人件数　計　322　件
	ツカサ電工株式会社	山佐木材株式会社	

専　攻　科

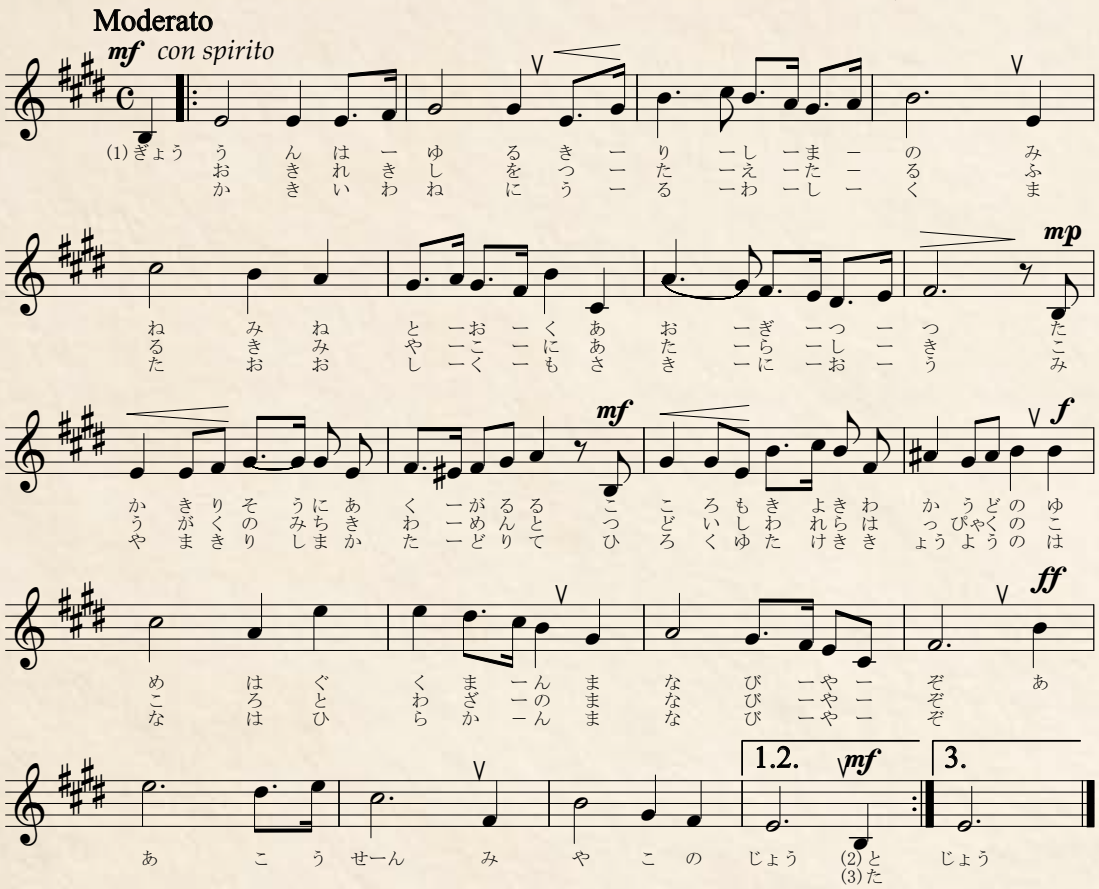
機械電気工学専攻	出光興産株式会社	物質工学専攻	沢井製薬株式会社	建築学専攻	株式会社奥村組
	ENEOS株式会社		住友ゴム工業株式会社		清水建設株式会社
	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社		中外製薬工業株式会社		株式会社第一ヒューテック
	富士電機株式会社		DIC株式会社		三井住友建設株式会社
	九州大学大学院		日東電工株式会社　亀山事業所		三菱地所コミュニティ株式会社
	熊本大学大学院		東京工業大学大学院		三菱地所レジデンス株式会社
	総合研究大学院大学		奈良先端科学技術大学院大学		
	東北大学大学院				
	北陸先端科学技術大学院大学				

専攻科全求人件数　計 1,595　件

（令和２年12月末現在）

都城工業高等専門学校校歌

作詞　清水　徹
作曲　海老原　直



一
暁雲映ゆる霧島の
峰々遠く仰ぎつゝ
高き理想にあくがるる
心も清き若人の
夢はぐくまん学舎ぞ
ああ高専都城

二
遠き歴史を伝えたる
古き都に新しき
工学の道極めんと
集いしわれら八百の
心と技術の学舎ぞ
ああ高専都城

三
高き岩根に美しく
また雄々しくも咲き匂う
みやま霧島かたどりて
広く豊けき教養の
花は開かん学舎ぞ
ああ高専都城

都城工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Miyakonojo College
〒885-8567 宮崎県都城市吉尾町473番地の1
TEL (0986) 47－1107 FAX (0986) 38－1508
URL　https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/